

3

189

東 京 國 書 館

類	屬	函	架	號	冊
---	---	---	---	---	---

陸軍士官學校編纂
兵要地誌

大日本之部
近江

卷之二十三



兵要地誌

兵要地誌 大日本之部卷之二十三 目錄

東山道

近江國誌

總論

山論

東脈

南脈

北脈

西脈

水論

琵琶湖

左岸ノ諸川在東ノ近江

一丁

二丁

二丁

八丁

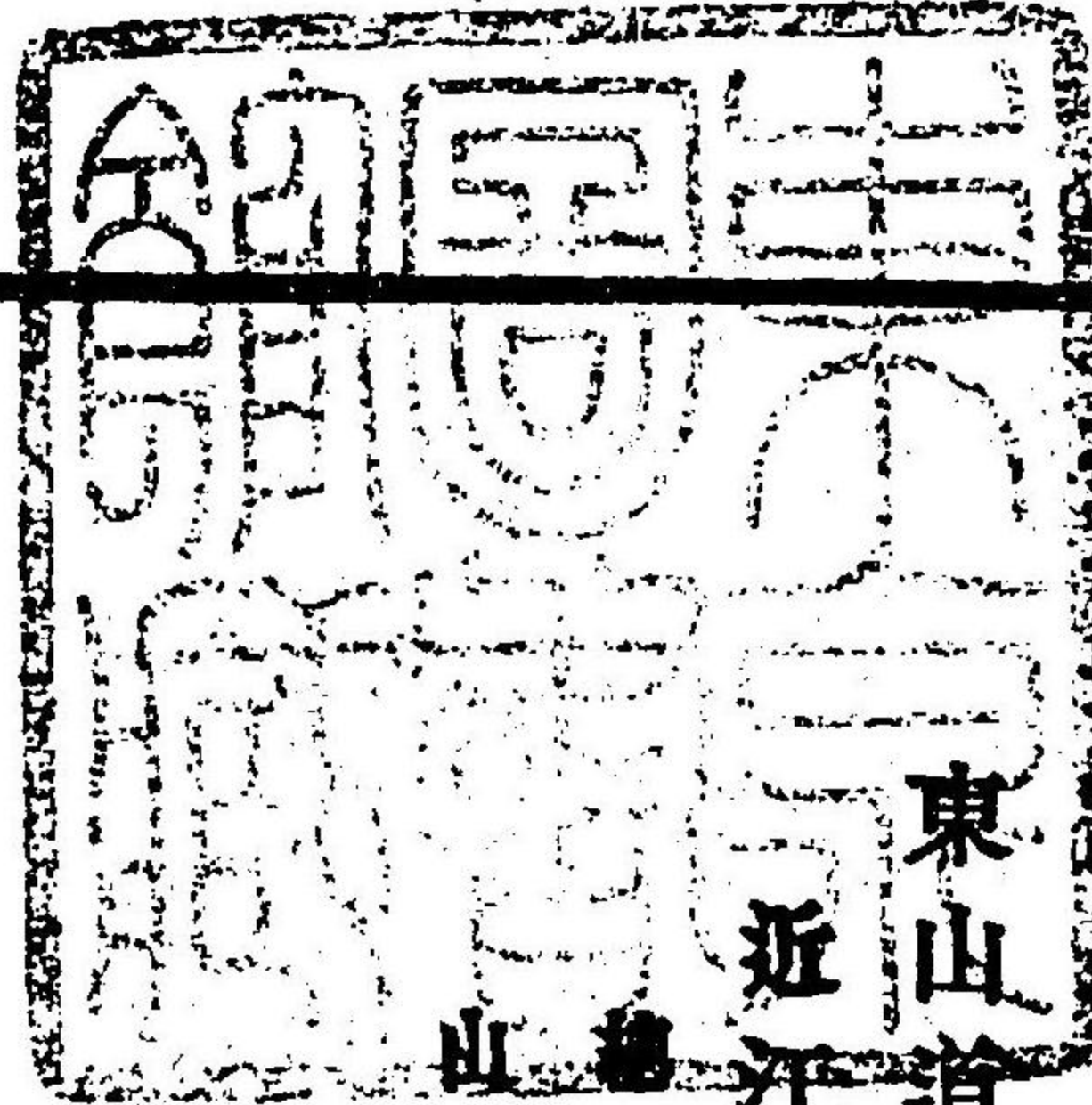
十丁

十二丁

十七丁

十七丁

No 9007

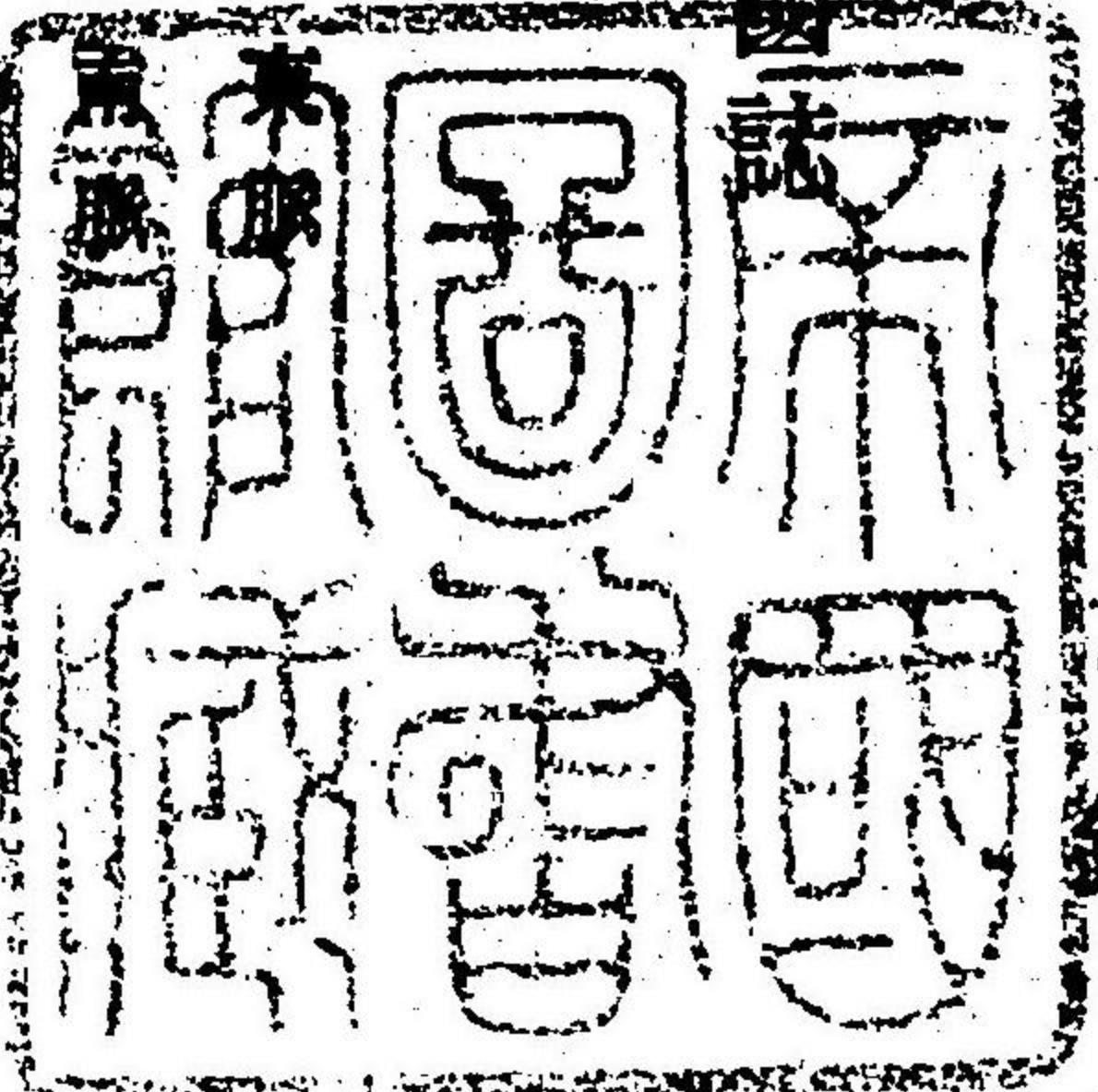


兵要地誌 大日本之部卷之二十三 目錄

東山道

近江國

山 總 論



一 二 二 八 十 十 十
丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

琵琶湖

左岸ノ諸川 東ノ近江ニ

十七 十七
丁 丁

日本部

右岸ノ諸川在江

三十六丁

交通路

四十三丁

沿革略史

四十五丁

兵要地誌

本日本之部卷之二十三

東山道

近江國誌

總論

陸軍教授三木信近 纂述



近江ハ古淡海ト稱ス、東山道ノ首位ヲ占メ、北緯約三十四度四十分ヨリ三十五度三十九分ニ至リ、西經約三十三度二十分ヨリ四度一分ニ亘ル、其境域北ハ若狹・越前、東ハ美濃・伊勢、南ハ伊賀・山城、西ハ山城・丹波ニ至ル、其廣袤東西凡十二里、南北凡十九里、之ヲ十二郡ニ區劃ス、伊香郡ハ國ノ北隅ニ在リ、淺井郡ハ伊香郡ノ南ヨリ湖ヲ隔テ、其西ニ跨ル、分テ東西二郡トス、蓋古陸地接續セシ

カ、地震ノ爲メ陷没スト云フ、阪田郡ハ東淺井郡ノ南ニ在リ、犬上郡ハ阪田郡ノ南ニ在リ、愛知郡ハ犬上郡ノ南ニ在リ、神崎郡ハ愛知郡ノ南ニ在リ、蒲生郡ハ神崎郡ノ南ニ在リ、甲賀郡ハ蒲生郡ノ南ニ在リ、栗太郡ハ甲賀郡ノ西ニ在リ、野洲郡ハ蒲生郡ノ西ニ在リ、高島郡ハ西淺井郡ノ南ニ在リ、滋賀郡ハ高島郡ノ南ニ在リ、栗太郡ノ西ニ連ナル、人口六十二萬七千零二十九明治十四年、國ノ形東西ニ短クシテ南北ニ長ク、恰楕圓ノ狀ニ似タリ、地勢四圍山脈ヲ繞ラシ、此山脈ヨリ數多ノ岐脈ヲ發シ、國內ニ進ムニ從テ漸低ク、中央ニ大湖アリ、汪洋海ノ如シ、淡水ナリ、故ニ周圍ノ山脈ヨリ發スル流水皆相向テ湖ニ流注ス、湖

ノ東南ハ土壤廣ク平行膏腴ナレト、西北ハ湖山近ク追ル、氣候ハ極暑九十三度極寒三十五度ニ出入ス、湖北ノ諸山ハ積雪稍深シト雖モ、湖南ハ太稀ナリ、物産ノ主ナル者、礦物ハ水晶、白石粉、硝子石、白石、虎斑石、硯、礪石、石灰、石炭、植物ハ米、穀、蕪菁、蘿蔔、鼠大根、薩摩薯、獨活、薑、柴胡、防風、當歸、桔梗、刈安、皂莢、漆、柿、林檎、烟草、茶、桑、油桐、竹、松、蠶、黑河、魚、動物ハ御、鯉、鮭、鰻、鮠、鮎、水魚、鱒、魚、鯉、山椒、魚、製造物ハ長濱糸、縮緬、天鵝絨、絹羽二重、奉書、紬、絹縮、龍門絹、蚊帳、高宮布、木綿縮、帷子地、兵主編布、曝布、雁皮紙、烏子紙、青花紙、油紙、合羽、信樂陶器、鑄器、瓦、鞆、浮吳座、疊表、水口笠、高籠細工、藤細工、櫛、竹、輶、池川、鉞、算盤、雪踏、烟管、大津繪、紡車、石盤、紅、銀、皮革、朽木、盆、製造食物ハ御、餅、干、瓢、葛、葛、

等ナリ、

山論

山勢越前ヨリ來リ二派ニ分レ、各南走シテ國境ヲ擁シ、以テ淀河上孟ノ周脈ヲ爲ス、今此山脈ヲ地勢ニ從ヒ分ツテ東西南北ノ四脈トシ、左ニ之ヲ説叙セントス、

東脈

東脈ハ櫛木峠ニ起リ越前美濃伊勢ノ國界ヲ畫シ、鈴鹿越ニ終ル、脈中ノ峻山ヲ中尾嶺トス、高時川ノ朝洗杉野川ノ水源ニ聳フ、土藏嶽・金藏嶽トス、其南ニ連ル、新穂山、國見峠トス、又其南ニシテ姉川ノ水源傍ニ在リ、伊吹山トス、又其南ニ在リ、國中第一ノ高山トス、隱然雲際ニ聳ヒ、晚春尙白雪ヲ戴ク、山腰ニ上平故城アリ、京極氏其臣

中尾嶺

伊吹山

三國嶽

山

淺井亮政ノ爲メニ土地ヲ奪ハレ僅ニ此一城ヲ保ツ、山トス、本、中、北ノ三山ニ區別ス、皆頂上ニ池アリ、三國嶽トス、濃、勢、江三國ノ交界點ニ在リ、燒尾山、鈴嶽トス、共ニ其南ニ連ル、釋迦嶽トス、愛知川ノ水源ニ在リ、綿向嶽トス、日野川ノ水源ニ在リ、高伊吹山ニ亞ク、鎌嶽、三子山トス、共ニ鈴鹿越ノ北ニ屹ツ、此山脈ヲ踰フル過路數條アリ、左ニ之ヲ枚舉ス

第一 櫛木峠ハ國道ノ通スル處ナリ、一ニ虎杖越ト云フ、所謂北陸道又東近江路是ナリ、中河内驛伊香ヨリ板取村越前ニ出ツ、國道ト雖モ甚險惡ナリ、近來修繕シ、纜車ヲ通ス、名古屋鐵臺ヨリ金澤營所ニ至ルノ途中ニ在テ第一ノ切所トス、殊ニ大雪ノ時ハ行

ヲ絶ツ、葦崩雪ノ虞アレハナリ、

第二 久加越ハ一日野浦峠ト名ク、土礫、金糞ノ二嶽
間ニ通ス、金居原村伊香ノ支村、土倉ヨリ川上村美濃
郡ニ出ツ、難路ナリ、

第三 鳥越越ハ金糞嶽ノ南ニ通ス、草野川ノ上谷、高山
村美濃ヨリ廣瀬村美濃ニ出ツ、險路ナリ

第四 甲須川峠越ハ妨川ノ上谷、甲須原村美濃ヨリ板
本村美濃ニ出ツ、難路ナリ、美濃ニ在テハ之ヲ新穂
峠ト云フ、

第五 國見峠ハ上板並村美濃ヨリ美束村美濃ニ出
ツル山路ナリ、

第六 横峠越ハ伊吹山ノ南麓ヲ通ス、上平寺村美濃ヨ

リ谷合村美濃ニ出ツ、美濃ニ在テハ之ヲ大又越ト
云フ、

第七 藤川越ハ國道線第八ノ通スル處ニシテ、所謂北
國脇往還是ナリ、藤川驛美濃ヨリ玉村美濃ニ出テ

關原驛ニ達ス、道路險ナラス、關原大戦ノ夜、徳川家康
藤川ニ陣スト即此地ナリ、

第八 長競越ハ國道線第七ノ通スル處ニシテ、所謂中
山道是ナリ、柏原驛美濃ヨリ今須驛美濃ニ達ス、四
時車ヲ通スヘシ、兩國ノ界ニ長競一名、寇物語ト云フ

フ地リ、之ヲ過クルヲ以テ名シト云フ、元龜元年、淺井
長政此地ニ塞ヲ構ヒ、兵ヲ置テ信長ニ備フ、六月、堀
口鎌乃山城刈安城ヲ以テ信長ニ降ルヲ聞キ、城兵城

藤川家康

城址

ヲ棄テ去ル、

第九 五僧越ハ五僧村大上ヨリ時山村石津郡上コ出ツ、

一ニ島津越ト名ツ、相傳關原ノ役ニ島津義弘西軍ニ

應シ、關原ニ出陣ス、西軍敗レ義弘其臣入江權右衛門

ヲ先驅トシ、此山路ヲ經テ多賀村ニ出テ、散卒ヲ集ム

ト、其以前ハ此路ヲ知ル者ナシ、島津氏初テ通過セシ

哉ニ此名アリト云フ、義弘ハ西國ノ人タリ而シテ能

此國ノ地理ヲ知ル、兵ニ將タル者戰ニ臨ム固ヨリ

宜シク如此ナルヘシ、

第十 燒尾越ハ一ニ大君畑越ト云フ、大君畑村大上ヨ

山口村伊勢郡員ニ出ツ、險路ナリ、

第十一 君畑越ハ茨川村愛知ヨリ新町村伊勢郡員ニ出

ツ、難路ナリ、

第十二 八風越ハ杜葉尾村神崎ヨリ切畑村伊勢郡朝

山ツ、難路ナリ、

第十三 千草越ハ一ニ根來越ト云フ、甲津畑村蒲生ヨ

リ千草村伊勢郡重ニ出ツ、永祿十二年、信長美濃ニ歸ル、

敵兵餘江・市原ニ要スルヲ聞キ、乃蒲生賢秀等ヲ嚮導

トシ、千種路ニ由テ歸ル、六角義賢・杉谷善住坊ヲシテ

山木中ニ伏シ、信長ヲ狙撃セシム、二丸其衣袖ニ中

ト即チ此山徑ナリ、

第十四 大久保越ハ一ニ大河原越ト云フ、大河原村甲

郡ヨリ大久保村伊勢郡ニ出ツ、

第十五 小岐須越ハ大河原村甲賀ヨリ小岐須村伊勢

郡ニ出ツ、

第十六 安樂越ハ山女原村郡甲賀ヨリ安樂村郡伊勢出ツ、

第十七 鈴鹿越ハ國道線ニ當ル、所謂東海道是ナリ、山

中村郡甲賀ヨリ坂下郡伊勢至ル、阪路八丁二十七

曲、古關ヲ置キ美濃ノ不破越前ノ愛發ト並稱シ三關

ト云フ、

東脈ノ岐山甚多シ、其金葉嶽ヨリ支出スル者ハ、暫ク伊

香・淺井ノ郡界ヲ爲シ、其山脚延テ姉川ノ諸潮流間ニ起

伏ス、就中著名ナル者ヲ小谷山トス、東淺井郡伊部驛ノ

北ニ在リ、淺井氏ノ城址ナリ、淺井亮政京極氏ニ叛テ自

立シ、永正十三年初テ城キ之ニ據ル、翌年四月、京極高岑

小谷山城

來リ圍ム克ツス、九月高岑六角氏ト連和シ再之ヲ圍ム、
 亮政援ヲ越前朝倉氏ニ乞フ、夾擊テ之ヲ破リ遂ニ上平
 ナ攻ム、高岑和ヲ請フ、永正十五年、高岑又六角氏ト連和
 シ來リ圍ム、亮政奇計ヲ用ヒ、擊テ之ヲ卻ク、其子長政ニ
 至リ、元龜二年、信長來リ攻メ火ヲ城下ニ縱テ退ク、長政
 尾撃克ツス、翌年三月、信長火ヲ城下ニ縱テ遂ニ志賀郡
 ニ入ル、七月、信長復來リ攻ム、長政援ヲ朝倉氏ニ請フ、信
 長城險ニ拔ケ難キヲ以テ、長圍ヲ築キ之ヲ困マシメ
 ント欲シ、壘ヲ虎御前山ニ築ク、既ニシテ朝倉義景來リ
 援ク、九月、信長兵ヲ留テ去リ、義景モ亦兵ヲ留テ去ル、天
 正元年八月、信長大舉シ來リ討ツ、諸城或ハ陥リ或ハ遁
 レ皆此一城ニ保ム、信長軍ヲ分テ越前ノ援路ヲ絶ツ、城

虎御前山
舊址

織田信長
陣地

横山城址

中益、困ニ急ニ義景ニ告ク、義景來リ援ク、既ニ朝倉氏ノ兵多ク叛キ降ル、義景懼レ夜營ヲ拔テ遁ル、信長急ニ追起前ニ入り朝倉氏ヲ滅シ、留ル數日盡ク越前ヲ平ケ、兵ヲ引テ還リ虎御前山ニ屯ツ、長政父子ヲ招ク答ヘス自殺シ城陷ル、虎御前山ニ作ルハ小谷山ノ西丁野村ノ南ニ在リ、信長ノ砦址アリ、又新穂山ヨリ岐出スル者ハ、姊川ノ上流ト其朝流草野川トノ間ニ展テ南ニ亘リ、姊川ノ上流ヲシテ南流セシム、其尾端ヲ七尾山ト名ク、伊吹山ノ餘派ハ姊川ト天川トノ間ニ在テ、累々トシテ起伏ス、其著名ナル者ヲ臥龍山トス、其北角ヲ龍鼻ト稱ス、姊川ノ役ニ信長ノ陣スル所ナリ、其西南ニ連ルテ横山トス、山上ニ横山城址アリ、京極氏ノ支城ナリ、永正十

鎌刃山古
城址
地頭山古
城址
六波羅山
陣址

四年、淺井亮政攻テ之ヲ陷ル、十五年、六角定頼此城及地頭山城・鎌刃山城ヲ修繕シ、之ヲ據テ小谷城ヲ攻メテ謀ル、後遂ニ淺井氏ノ有ト爲ル、姊川ノ役ニ、信長小谷ヨリ歸リ此城ヲ急攻ス、淺井長政之ヲ聞キ朝倉氏ノ援兵ト共ニ來テ之ヲ救ハントシ、姊川ニ大戰シ大ニ敗ラル、城兵遂ニ退散ス、信長乃木下秀吉ヲ置テ守ラシムト云フ、盤山ヨリ岐出スル者ハ、善利川ト天川トノ間ニ在テ西ニ亘リ蟠結ス、梓山・佛返山、尤有名ナリ、佛返山ヨリ數派ニ分ル、其北派ハ中山道ヲ横截ス、鎌刃山古城・地頭山古城及六波羅山ノ陣址ハ此山中ニ在リ、鎌刃山城一ニ鎌刃城又釜川城ニ作ル、淺井長政其驍將堀某ヲ置テ信長ニ備フ、信長之ヲ誘降ス、諸壘皆解走ス、中派モ亦西ニ

延伸シ、其尾端磨針峠ト爲ル、南派ハ阪田・犬上ノ郡界ヲ
 番ス、其餘派佐和山・磯山ト爲リ湖ニ入ル、此岐脈中ニ正
 法寺山一名鳥籠山アリ、甚高シ壬申ノ役ニ三月男依等
 近江ノ將秦友足ヲ鳥籠山ニ討ツテ之ヲ斬ルト即此山
 ナリ、關原ノ役後徳川家康藤川ノ營ヲ移シ、佐和山ヲ攻
 メ之ニ勝ツ、故ニ又勝山ト名ク、佐和山・磯山ハ其ニ古城
 址ナリ、水論ニ詳ニス、三國嶽ヨリ支分スル者ハ、善利川
 ト、犬上川トノ間ニ延伸ス、其尾端ニ秀ル者ヲ敏満寺山
 ト名ク、古山上ニ巨刹アリ、敏満寺ト號ス、子坊百餘アリ
 永祿年中淺井長政久徳左近ヲ討ツ、山僧久徳ヲ援ク、長
 政久徳ヲ破リ、歸途寺ヲ燬キ山僧ヲ殺ス是ヨリ大ニ衰
 フ鈴嶽ヨリ支出スル者ハ、西南ニ斜伸シ、初智ク、犬上、愛

家康陣地

知ノ郡界ヲ番シ、次テ愛知郡ニ入り、愛知川ニ沿テ西走
 ス、八尾山ハ犬上川ノ上流ヲ隔テ、此岐脈ニ相對シ、犬
 上・愛知ノ郡界ニ輻起シ、宇會川ノ水源ヲ爲ス、綿向嶽ニ
 直ニ連ル高山ヲ龍王嶽トス、神崎・蒲生ノ郡界ニ在リ、之
 ヨリ支分セル岐脈ハ、愛知川ト日野川トノ間ニ綿直起
 伏ス、箕作山・觀音寺山・安土山ハ此脈中ニ在リ、著名ナル
 古城址ナリ、其餘派八幡山ト爲リ、遂ニ湖ニ入テ長命寺
 山・沖島ト爲ル、其八幡山ハ豊臣秀次ノ城址ナリ、此諸城
 ノ傳ハ後ニ詳ニス、又綿向嶽ヨリ支分シテ、日野川ト野
 洲川トノ間ニ蜿蜒連直スル者ハ、西走シテ蒲生・甲賀ノ
 郡界ヲ番ス、其尾端ニ屹立スルヲ菩提寺山・三上山・鏡山
 トス、其三上山ハ中山道守山驛ノ東北ニ聳テ、直立一千

三上山

第六 小山嶺越亦多羅尾村ヨリ中屋村伊賀郡阿ニ出ツ、

第七 阿留岐谷嶺越亦多羅尾村ヨリ大道村伊賀郡阿ニ

出ツ、

第八 柞嶺越ハ下朝宮村伊賀郡ヨリ湯舟村山崎郡相ニ出

ツ、

第九 裏白嶺越ハ野尻村伊賀郡ヨリ山田村山崎郡ニ出

ツ、

第十 宇治田原越ハ小田原村栗太郡ヨリ岩木村山崎郡

ニ出ツ、天平寶字八年、惠美押勝叛ヲ謀リ近江ニ奔ル、

山城守日下部子營・佐伯伊多智等此間道ニ依テ、先、近

江ニ至リ勢多橋ヲ燒キ其道ヲ閉ツト、

第十一 曾束越ハ曾束村栗太郡ヨリ二尾村山崎郡ニ出

ツ、南脈亦岐脈甚多シ、總テ之ヲ甲賀山ト稱ス、就中高
畑山ヨリ支分スル者ハ北ニ亘リ土山驛ノ南ニ至ル、
山上ニ池アリ姫池ト稱ス、又長峯ヨリ岐出スル者ハ
初、北ニ向フ、之ヲ飯道寺山ト名ク、次テ折レテ阿星山
ト爲リ、栗太・甲賀ノ郡界ニ屹立ス、阿星山ヨリ山脈ニ
派ニ分レ、共ニ西走シ湖畔ニ至ル、是、大戸川ヲシテ西
流シ直ニ湖ニ入ラスシテ、勢多河ニ會スルニ至ラシ
ムル所以ナリ、其北派ヲ金勝山トシ、南派ヲ雞冠山・駒
坂山トス、此南派更ニ延伸シテ勢多河邊ニ至ル、其盡
頭ニ在ル者ヲ大日山トス、河ヲ挾ンテ石山ニ對ス、又
大戸川ノ南ニ一小脈アリ、川ニ平行シテ起伏ス、故ニ
大戸川ノ上流ハ狹隘ナル山間ヲ流ル、是ヨリ西・山城

ニ界スル諸山ハ、皆長キ山嶺ヲ延ヘ大戸川ノ南ニ參
差ス、就中著名ナル者ヲ笹間嶽トス、

北脈

北脈ハ、檜木峠ヨリ起リ、西南ニ亘リ越前若狹ノ國境ヲ
畫シ熊川越ニ至ル、脈中ノ名山ヲ内中尾山トス、柳瀬ノ
西ニ峙ツ、賤嶽ノ戰ニ柴田勝家此山上ニ陣ス、行市山ト
ス、古昔東野行一ナル者、城キ居ル故ニ名ク、賤嶽ノ戰ニ
佐久間玄蕃此山上ニ陣ス、二山越前界ニ在リ、在原山ト
ス、知内川ノ水源ニ在リ、三十三間山トス若狹境ニ在リ、
此山脈ヲ踰フル山路ハ左ノ如シ、

第一 庄野峠越ハ一ニ中尾峠ト云フ、中河内驛伊香ヨ
リ池河内村越前ニ出ツ、樵路ニ過キス、

柴田勝家
陣地
佐久間玄蕃
陣地

第二 倉坂越ハ、又鞍坂ノ文字ニ作り或ハ刀根坂トモ

云フ、柳瀬驛伊香ヨリ刀根村越前ニ出ツ、縣道ナリ、

近來陸道ヲ穿テ鐵道ヲ通シ、琵琶湖ノ港市長濱ト敦
賀港トノ往復ニ便ス、元龜三年、信長朝倉氏ノ兵ヲ敗
リテ古戰場ナリ、

第三 沓掛越ハ、一ニ新道越ト稱ス、沓掛村四津ヨリ新

道村越前ニ出ツ、縣道ナリ、鹽津港ヨリ敦賀ニ出ツル

捷路ナリ、故ニ又鹽津越トモ名ク、

第四 深坂越ハ、沓掛村上ヨリ追分村越前ニ出ツ、縣

道ナリ、

第五 大浦越ハ、山門村四津ヨリ山中驛越前ニ出ツ、

琵琶湖畔ノ大浦ヨリ敦賀ニ至ル便路ナリ、故ニ名ク、

第六 山中七里半越ハ、琵琶湖ノ港市海津ヨリ山中驛
越前郡 敦ニ達ス、海津ヨリ敦賀港ニ至ル、路程七里半ア
 リ故ニ名ク、縣道ナリ、所謂西近江路是ナリ、延元ノ亂
 ニ新田義貞皇太子ヲ奉シ、海津ニ上陸シ、越前ニ趣ク、
 足利高經大軍ヲ以テ此山道ヲ塞ク、

第七 栗柄越ハ、牧野村高島郡ヨリ栗柄村若狹郡ニ出ツ、
 難路ナリ、

第八 熊川越ハ、一ニ大杉越ト名ク、大杉村高島郡ヨリ熊
 川驛若狹郡ニ出ツ、縣道ナリ、琵琶湖ノ港市今津ヨリ
 若狹ハ小濱ニ達スル本道ナリ、若狹ノ北川源ヲ本國
 天舛川ニ發シ、西流シテ此山口ヲ開ク、元龜元年、信長
 朝倉氏ヲ討テ敦賀ヲ攻ムル時、此道ニ由リ若狹ヲ經

テ越前ニ入ル、

北脈ノ岐山亦甚多シ、其最東北端ヨリ支出スル者ハ、中
 河内驛ト椿坂驛トノ間ニ於テ國道ヲ橫截ス、之ヲ椿坂
 峠ト云フ道路險峻行旅ノ困ム所ナリ次テ折レテ南走
 シ、余吳川ト高時川トノ間ニ綿亘起伏ス、其尾端ヲ田上
 山トス、田上山ノ西南ニ孤立スル山ヲ涌出山トス、椽尾
 山ハ柳瀬驛ノ西ニ在リ、賤嶽戰ニ柴田勝家ノ臣・毛受勝
 介ノ戰死セシ地ナリ、又行市山ヨリ支分スル者ハ、南走
 シテ西淺井・伊香ノ郡界ヲ畫シ、琵琶湖畔ニ至リ折レテ
 東ニ余吳湖ヲ擁ス、之ヲ賤嶽ノ諸山トス、賤嶽ハ余吳湖
 ノ西岸ニ峙ツ、天正十一年、秀吉湖山ノ形勢ニ據リ連珠
 砦ヲ築キ柴田勝家ヲ拒ク、大岩山ハ其東北ニ連ル、中川

賤嶽

中川清秀
陣地

清秀ノ陣ニシ地ナリ、壘跡今猶存ス、佐久間盛政・勝家ノ先鋒トシ之ヲ攻ム、清秀高山友祥ト數千人ヲ以テ之ニ奮リ苦戰終ニ死ス、又其西ニ二脈アリ相平行ス、一ハ鹽津川ト大浦川トノ間ニ在テ支出シテ南走シ、湖中ニ突出シテ鹽津灣ヲ爲ス、南端菅浦ニ盡キ、其餘派湖中ニ入テ再隆起シ竹生島ト爲ル、山中七里半越ノ東ヨリ、岐分スル者ハ、西近江路ニ沿テ南馳シ、亦湖中ニ挺出ス、其盡頭ヲ犬崎トス、嶮岩崎嶇トシテ水邊ニ峙ツ、又三十三間山ヨリ岐出スル者ハ、百瀬川ト石田川トノ間ニ重疊ス、之ヲ川上山トス、

西脈

西脈ハ熊川越ニ起リ、蜿蜒トシテ南ニ亘リ、若狭・丹波・山

比叡山

城ノ國境ヲ畫シ、勢多河ノ流出スル山凹ニ盡ク、脈中ノ高山ヲ比叡山トス、山城ニ跨ル、直立二千一百六十尺、南麓坂本村ヨリ頂上ニ至ル一里一丁餘、皇都ノ良位ニ在ルヲ以テ又良嶽ト稱シ、其頂上ヲ四明嶽ト名ク、山上樹木生セス、寺院佛刹相連ル、古ハ三千坊アリ、中堂ヲ延曆寺ト稱ス、中世僧徒等擅ニ兵ヲ弄シ、勢頗盛ナリ、建仁年中、僧徒亂ヲ作ス、源實朝・佐々木盛綱ヲシテ之ヲ討タシム、佐々木重綱高綱之ニ死ス、延元元年、足利尊氏ノ軍京師ヲ犯ス、新田義貞後醍醐天皇ヲ奉シテ之ニ據ル、前後兩度、僧徒義ヲ唱ヘ戰ヲ力ム、元龜元年、朝倉義景・淺井長政兵ヲ合シ之ニ據ル、信長之ヲ攻メ、毎夜襲撃ス、而シテ人ヲシテ其僧徒ニ説カシメ、彼ヲ捨テ我ヲ助ケヨ否ラ

園城寺古

サレハ中立助クル所アル莫レト、僧徒聽カス、和成ル、朝倉淺井兵ヲ解キ國ニ歸ルノ後、信長怒テ諸堂ヲ燔キ、僧徒婦女老少トナク皆之ヲ斬ル、故ニ今ハ百二十五宇ニ過キス、之ニ亞ク者ヲ長等山トス、山麓ヨリ十四丁餘、山中ニ巨刹アリ園城寺又三井寺ト稱ス、神社佛閣甚多シ、古ハ頗繁榮ヲ極メ比叡山ト韻類ス、比叡山ヲ山門ト稱シ、當山ヲ寺門ト稱シ、常ニ相惡ク屢相争フ、永保元年、比叡山ノ僧徒當山ヲ燒ク、治承ノ亂ニ以仁王ノ旨ヲ奉シ、源三位頼政ニ與ミシ義兵ヲ舉ク、事成ラス、平重衡之ヲ攻メ伽藍堂塔ヲ燔ク、又延元ノ亂ニ細川定禪之ニ據リ比叡山ト相持ス、新田義貞兵六萬ヲ以テ之ヲ圍ミ、火ヲ縱ッテ定禪ヲ走ラス、此脈ヲ踰フル過路ハ左ノ如シ、

第一 麻生越ハ、小入口村高島郡ヨリ池河内村若狹郡ニ出ツ、樵路ニ過キス、

第二 張畑越ハ、張畑村高島郡ヨリ上根來村若狹郡ニ出ツ、坂路頗半鴈之ヲ踰フル甚難ナリ、元龜元年、織田

信長越前ヲ討ツ、淺井長政・六角氏ノ餘黨ヲ招キ、信長ノ背ヲ擊ツ、信長報ヲ得テ急ニ軍ヲ班ス、途若狹ノ小濱ニ至リ、根來村ヨリ此峠ヲ踰ヘ朽木谷ニ入ル、朽木元綱兵ヲ率テ之ヲ迎ヒ、又送テ途中越ヨリ京師ニ至ルト云フ、

第三 久多越ハ、小川村高島郡ヨリ川合村山城郡ニ出ツ、亦樵路ニ過キス、

第四 覆嶺越ハ、梅木村滋賀郡ヨリ川合村山城郡ニ出ツ、

亦樵路ニ過キス、

第五 途中越ハ、一ニ龍華越ト名ク、途中村滋賀ヨリ小
 山石村山城ニ出ツ、西京ヨリ朽木谷ヲ經テ、若狹ノ
 熊川驛ニ至ル間道ナリ、西京ノ人之ヲ若狹街道ト云
 フ、蓋若狹ヨリ日々魚類ヲ西京ニ運輸スル者、皆此路
 ニ由ルヲ以テナリ、平治元年、源義朝六波羅ノ戰ニ敗
 レ、此山路ヲ踰ヘテ走ル、比叡山ノ僧徒途ニ鹿角ヲ樹
 ヘ之ヲ遮ル、義朝之ヲ擊破シ過ク、途中村ヨリ岐シテ
 西北ニ向ヒ山城大見百井二村ニ通スル間道アリ、七
 谷越又明智新道ト云フ、明智光秀阪本城ニ在ル時、新
 ニ開キ丹波ノ篠山ニ通ス、故ニ名シト云フ、
 第六 仰木越ハ、仰木村滋賀ヨリ大原村山城ニ出ツ、

山路險難牛馬通セス、

第七 雲母越ハ、上坂本村滋賀ヨリ一乘寺村山城ニ
 出ツ、比叡山ヲ踰フル道ナリ、雲母坂ハ比叡山西坂ニ
 在リ、西京ヨリ比叡山ニ登ル本道ナルヲ以テ名ク
 第八 青山越ハ、一ニ白鳥越ト云フ穴太村滋賀ヨリ一
 乘寺村滋賀ニ出ツ、山路馬蹄ニ惡シ、青山・白鳥山共ニ比
 叡山ニ連ナル小山ナリ、上古ハ北國ニ通スル道路ナ
 リ、故ニ又古路越ト名ク、
 第九 山中越ハ、山中村滋賀ヨリ白川村山城ニ出ツ、
 路山中村ヲ歴ルカ故ニ此名アリ、小徑ナリ、北國往來
 ノ便ヲ謀リ、後ニ開キシヲ以テ又今路越ト云フ、蓋古
 路越ニ對スル稱ナリ、

小關古殿

第十 小關越ハ、神田村滋賀郡ヨリ西宮村山城郡ニ出ツ、山間ヲ通ス、小關ハ逢坂關ヲ大關ト云ヒ之ニ對スル稱ナリ、治承ノ亂ニ平重衡三井寺ヲ攻ム、僧徒等大關小關ニ之ヲ防ケル衆寡敵セス敗レ死スル者八百餘人云々、大關小關是ナリ、

第十一 逢坂越ハ、國道線ノ通スル處ニシテ、所謂西京道是ナリ、大津ヨリ西京ニ至ル三里二十三丁、神功皇后攝政ノ初、武内宿禰命ヲ奉シテ忍熊王ヲ討ツ、宿禰忍熊王ヲ欺キ其軍稍退ク、宿禰乃チ精兵ヲ出シテ之ヲ追ヒ、此坂ニ逢テ破ル、故ニ名クト云フ、今ノ道ハ後世開鑿セシ者ニシテ頗平夷ナリ、元龜・天正ノ頃ハ、尙險ニシテ關門アリ、所謂逢坂關是ナリ、蓋シ此地東海・東山

逢坂關

北陸三道ノ要衝ニ當ルヲ以テナリ、其關址ハ今ノ道路ノ南ナル山上ニアリ、相坂山一ニ關山又手向山ト云フ、其名史乘ニ著シ、西京ヨリ大津ニ通スル鐵道・追分以北此道ニ沿フ墜道アリ、

第十二 伏見街道ハ、一ニ逢坂越ト云フ、西京道ノ追分ヨリ岐分シ、伏見山城郡ニ至ル約四里長道ナリ、維新前迄西國中國ノ諸侯幕府ニ參勤スル皆京師ニ入ラズ此道ニ由テ直ニ伏見ニ出ツ、故ニ往來甚繁シ、西京鐵道線此道ニ沿フ、

第十三 醍醐越ハ、石山ノ麓ナル寺邊村滋賀郡ヨリ西近江取村山城郡ニ出ツ、小徑ナリ、

第十四 畑越ハ、外畑村滋賀郡ヨリ二尾村山城郡ニ出ツ、

小徑ナリ、

西脈ノ岐脈ニシテ、若狹境ノ諸山ヨリ支出スル者ハ、石田川ト安曇川トノ間ニ重疊シ、其餘勢終ニ琵琶庭野ト爲ル、又途中越ノ南ヨリ支分スル者ハ折レテ北ニ走リ、西脈ニ平行ス、是レ此脈ノ長大コシテ本脈トノ間ニ長四谷ヲ開ク所以ナリ、之ヲ朽木谷ト名ク、此岐脈中ノ名山ヲ比良嶽トス、湖西第一ノ高山コシテ、直立二千八百八十尺、麓ヨリ山頂ニ登ル一里九丁餘山上、樹ナク篠ノ茂ルノミ、其北ニ連ルヲ三尾山トス、又其北ニ連ルヲ阿彌陀山トス、西脈ノ南端ニ在テ湖邊ニ岐出スル者ヲ石山トス、勢多河其麓ヲ流ル、山上ニ佛刹アリ石山寺ト云フ、満山奇石多ク幽靜韻雅ノ勝地ナリ、古城址アリ、天正元年、

比良嶽

石山城古址

足利義昭・信長ヲ討テ、此處ニ城キ、山岡光淨院等ヲシテ守ラシム、信長・柴田勝家ヲシテ之ヲ攻メシム、勝家貢御、渡ニ於テ勢多河ヲ渡リ、山岡ヲ誘ヒ降ス、

永論

琵琶湖

國ノ中央ニ大湖アリ琵琶湖ト云フ、水面ノ高海面ヲ抜クヲ二百四十八尺、東西六里十一丁南北十六里十四丁二十五間、周回大約五十九里三十二丁、皇國第一ノ大湖ナリ、其形ノ似タルヲ以テ名ク、其漏口勢多河ト爲テ山城ニ入リ、以下山城琵琶湖内誌以テ淀河ノ水源ヲ爲ス、國內ノ諸川四境ノ山脈ヨリ發シ皆湖ニ向テ流注ス、要スルニ全國淀河ノ上谷ト謂フヘシ、其諸川湖ノ左右ニ在ルニ從テ、之ヲ大別シテ左岸ノ諸川右岸ノ諸川トス

左岸ノ諸川東近江ニ在ル者

第一 餘吳川ハ上流ヲ柳瀬川ト名ク、源ヲ椿坂村伊香ノ山中ニ發シ、山間ヲ南流シテ國道ニ沿ヒ、柳瀬驛ヲ過ク、國道ニ臨メル驛次ナリ、西岐路ヲ分テ、刀根越ヲ經テ、敦賀ニ達ス、今日ハ鐵道ヲ布設シ往來ヲ便ス、本國北境樞要ノ地タリ、其名殊ニ戰史ニ著シ、徳川氏ノ時關門ヲ置キ、井伊氏ニ命シ其家士ヲシテ戍ラシム、次ヲ天神山ノ東ヲ過キ、曲折シテ下餘吳村ノ西ニ至リ、餘吳湖ノ水ヲ合シ、是ヨリ下流ヲ餘吳川ト名ク、餘吳湖ハ賤嶽ノ北麓ニ在リ、南北三十三丁二十間東西八丁二十間、周回大、約一里二十七丁四十間、次ヲ大岩山ノ麓ヲ流レ、木ノ本驛ノ西ヲ過ク、此驛北國街道脇往還今トハ國ノ交會點ニ位

柳瀬驛

餘吳湖

木ノ本驛

前田利長陣地

磯野山故城址

山本山故城址

ス、警察署、郡役所西淺井伊香ニ鐵道停車場アリ、控扼ノ地ナリ、天正十一年二月、佐久間盛政歩騎二萬ニ將トシ、柳瀬ニ陣ス、前田利長先鋒ト爲リ、火ヲ關原ニ縱テ、退テ木ノ本ニ陣スト、即此地ナリ、次ヲ磯野村ヲ過ク、磯野山故城アリ、高、大約二十一丁、京極氏ノ支城ニシテ、磯野左衛門太夫之ヲ守ル、淺井亮政既ニ京極氏ト絶テ、永正十五年、其將大橋安藝・井口彈正等ヲシテ之ヲ攻メシメ、遂ニ陷ル、次ヲ折レテ西ニ向ヒ山本村ヲ過ク、山本山故城アリ、古昔山本遠江守義定其族ヲ以テ此ニ營居ス、治承四年、高倉宮ノ令旨ヲ奉シ、族ヲ舉テ此城ニ據ル、平知盛二萬騎ニ將トシ江北本國ヲ北ヲ討ツ、義定等敗レ走ル、其後、京極氏ノ支城ニ屬シ、淺見但馬・熊谷某之ヲ守ル、永正

尾上故城

淺井長政陣地

十五年、淺井亮政其將赤尾駿河等ヲシテ之ヲ攻メシム、
 初、利アラズ、磯野山城陷ルニ及テ、淺見・熊谷城ヲ開テ降
 ル、次テ尾上村ニ至リ湖ニ入ル、故ニ又尾上川ノ稱アリ、
 水路八里、濶八間、尾上村ニ尾上故城アリ、淺見俊孝ノ居
 城ナリ、永正十四年、淺井亮政攻メテ之ヲ拔ク、
 第二、姊川ハ源ヲ甲津原村、井部ノ山中ニ發シ、加須川
 越テ開ク、美濃ニ出ル捷路ナリ、初、凹谷ヲ南流シ、七尾山
 ノ南麓ヲ濶泗シテ西ニ向ヒ、國道ヲ横截ス、假橋長一十間
 一ヲ架シ往來ニ供ス、河水屢暴漲シ橋梁ヲ流スヲ以テ
 ナリ、次テ淺井・坂田ノ郡界ヲ畫シ、龍鼻山ノ北麓ヲ流ル、
 右岸ニ野村・三田村ノ二村アリ、川ヲ隔テ、龍鼻山ニ對
 ス、元龜元年六月、淺井長政野村ニ陣シ、朝倉景健三田村

朝倉景健陣地

姊川ノ大坂故城

草野川

草野村

國友故城

ニ陣シ、信長ヲ龍鼻ニ襲フ、信長之ヲ覺リ、兵ヲ勒シテ十
 三隊トシ、東北ニ向テ長政ニ當リ、徳川家康西北ニ向テ
 景健ニ當リ、劇戰ノ後大ニ之ヲ敗ル、所謂姊川ノ大戰是
 ナリ、次テ上坂村ノ北ヲ過ク、上坂故城アリ、上坂治部大
 夫景重ノ築ク所トス、次テ草野川ヲ合ス、草野川ハ源ヲ
 伊香郡界ノ岐脈ニ發シ、初、姊川ノ上流ニ平行シテ山間
 ヲ南流シ、草野村ヲ過ク、平治ノ亂ニ源賴朝此地ニ潛匿
 シ、關原ノ役後石田三成亦身ヲ樵夫ニ偽粧シ、此山奥ニ
 隠ル、次テ飯山村ヲ繞リ、西流シテ三田村ニ至リ、國道北
 還往ヲ横截ス、舟梁ナク河幅四徒涉スヘシ、次テ湯澤村
 ノ南ニ至リ、姊川ニ會ス、是ヨリ下流國友川ノ稱アリ、國
 友村ノ北ヲ過ク、國友故城アリ、淺井長政之ヲ築キ、野村

兵庫ヲ置キ信長ニ備フ、元龜二年、宮部善祥坊之ヲ攻メ
克タス、次テ小濱村ニ至テ、又淺井郡ニ入り、酢村ニ於テ
北國街道ヲ横截ス、橋アリ、姊川橋幅長一四八尺ト云フ木
橋ナリ、次テ落合村ニ至テ高時川ヲ合セ、南濱村ニ至リ
湖ニ入ル、水路大約九里濶五十間、高時川一ニ高月川ト
名ク、源ヲ中河内郡伊香ノ山間ニ發シ、最初南流シテ櫛木
峠ヲ開ク、國道ノ通スル處ナリ、中河内驛ニ至リ、東ニ折
レ、北國街道ヲ横截ス、橋幅長二五間アリ、圮橋ナリ、中河内驛
ハ本國極北ノ山地ニシテ、冬春積雪深ク、屢行ヲ絶ツ、蓋
崩雪ノ威アレハナリ、次テ越前境ノ山脈ニ平行シテ東
南ニ流レ、其山脈ヨリ發スル溪水ヲ集メ、次テ餘吳川ニ
平行シテ南流シ、河合村ニ至リ、杉野川ヲ合セ、馬上村ニ

馬上村古

至リ馬上川ト稱シ、古、雨森村アルト云フ、右岸ニ國道往北國
ヲ横截ス、橋アリ、高時川橋幅長一三三間、幅ト云フ木橋ナリ
馬上村ノ山上故壘アリ、元龜二年、織田信長再淺井長政
ヲ小谷城ニ攻メ、朝倉義景兵二萬ヲ以テ來リ援ク、木下
秀吉此壘ヲ築キ、之ニ據テ朝倉ノ兵ヲ支フ、次テ淺井郡
ニ來リ馬渡川ト稱シ、馬渡村ニ於テ北國街道ヲ横截ス、
橋アリ、大長一四間、幅小一長一四間、幅二條ヲ連架ス、共ニ
木橋ナリ、其北ニ速水驛アリ、街道ニ臨ム、又其北ニ高月
物部ノ二村アリ、共ニ元龜、天正間ノ古戰場ナリ、次テ唐
國村ノ西ニ至リ、田川ヲ合ス、田川ハ水源三アリ、一ハ池
與村ノ山ニ發シ、初南ニ流レ、小室村ノ西ニ至テ西ニ向
フ、小室村ニ小室邸址アリ、寛永年中、小堀正一ヲ封ス、天

元龜天正
ノ古戰場

明年中六世政方ノ時收封セラル、一ハ小谷山ニ發シ、郡
 上・伊部ノ二驛間ニ於テ、國道ヲ橫截シ、西南ニ流ル、一ハ
 大依山ニ發シ、尊勝寺村ヲ經テ西北ニ流レ、富目村ノ南
 ニ於テ三水相會シ、唐國村ニ至リ、北國街道ヲ橫截ス、橋
 一長九間幅アリ木橋ナリ、次テ高時川ニ入ル高時川水路
 大約十里、濶二十間、姉川河口ノ南ニ長濱千九約五アリ、
 西ハ湖ニ臨ミ、漁船常ニ大津ニ往來シ、以テ鐵道線路ニ
 代ル、市街清潔富戸軒ヲ連テ、亦繁榮ノ地ナリ、居民専紡
 織ヲ業トシ、縮緬・絹縮等ヲ製造ス、有名ナリ、世ニ長濱縮
 緬ト稱スレニ至ル、警察署郡役所東淺井坂田ニ電信分
 局、鐵道停車場、學校、銀行、神社等アリ、其鐵道東ハ美濃ヲ
 經テ尾張ノ豐武港ニ達シ西ハ越前ノ敦賀港ニ達ス、古

長濱

長濱城

ハ今濱ト稱シ、城アリ上坂治部大夫景重ノ築ク所トス、
 景重ハ京極氏ノ家宰ナリ、永祿十三年、淺井亮政・京極氏
 ト絶テ、攻テ之ヲ拔キ據ル、京極氏六角氏ノ援フテ攻ム
 ルヲ聞キ、小谷ニ城キ退ク、尋テ京極氏ノ士再、城ヲ修理
 シ、之ニ據ル、翌年、淺井朝倉ノ兵攻テ又之ヲ拔ク、天正元
 年、信長・淺井ヲ滅シ、其故地ヲ以テ羽柴秀吉ニ與ヒ、此城
 ニ置ク、秀吉今濱ヲ長濱ニ改ム、後、柴田勝家之ヲ併シ、義
 子勝豐ヲ置ク、慶長十一年、家康此城ヲ内藤信成ニ賜フ、
 後城ヲ廢ス、長濱ノ東ニ宮川驛アリ、長濱ヨリ春照驛ニ
 達スル捷路ニ臨ム、徳川氏ノ初、堀田正休ヲ封シ世々之
 ニ治ス、
 第三 天川ハ源ヲ柏原驛ノ南・菖蒲池ニ發シ、北流シテ

柏原驛千六百約一ニ於テ、中仙道ヲ横截シ、膽吹山イブキ彌高山ミタカ等ヨリ發スル諸水ヲ集メ、山間ヲ曲折シテ西ニ流レ、梓川ヲ合ス梓川ハ梓山ヨリ發シ、北流シテ梓河内ニ至リ、中山道ヲ横截ス、橋アリ梓川橋長十間ト云フ、木橋ナリ、二水相會シテ、醒井驛サトヲ過ク、中仙道ノ驛次ナリ、驛内ニ清泉アリ、有名ナリ、次テ牛打村ニ至リ丹生川ヲ受ク、丹生川ノ中仙道ヲ横截スル處ニ橋アリ、丹生川橋長十間ト云フ、木橋ナリ、次テ朝妻村ニ至リ湖ニ入ル、水路四里、濶十五間、朝妻

箕浦故城

朝妻村

ハ古ハ繁昌ナル湊ニシテ頗有名ナリ、慶長年中、此湊ヲ米原ニ轉ス、徒テ其富庶繁華皆米原ニ移リ、今ハ碓泊ノ遺跡ヲモ留メス、朝妻故城アリ、新庄駿河之ニ居リ、淺井氏ニ隸ス、後六角氏ニ應ス、永祿三年、淺井長政之ヲ圍ミ攻ムル急ナリ、新庄支フル能ハス、又淺井氏ニ降ル、信長兵ヲ本國ニ出スニ及テ救授ヲ長政ニ請フ、長政果サス、乃信長ニ降ル、天正元年、將軍義昭再兵ヲ擧ケ信長ヲ討ツ、報岐阜ニ至ル、信長即起テ直ニ馳テ佐和山ニ至リ、兵艦ニ乗シテ夜朝妻ノ渡ヲ濟リ、且日坂本ニ達スト即是ナリ、米原ハ天川河口ノ南ニ淺注スル入江ニ臨ム港市ニシテ、北國街道ノ一驛ナリ、此入江ハ磯入江ト稱シ、南北三十丁餘東西十五丁アリ、其西ニ磯山アリ、島ナリ、

朝妻故城

米原

磯山故城

下矢倉村

鳥居本驛

鳥居本古

磨鉢峠

入江ヲ隔テ、相望ム、此島・南千々松原ト一葦水ヲ隔ツ、
 之ヲ四川ト名シ、山上ニ磯山故城アリ、永正七年、京極氏
 ノ家宰上坂景重攻テ之ヲ拔ク、淺井亮政年十六軍ニ從
 フテ功アリ、是ヲ淺井氏家ヲ興スノ嚆矢トス、後、淺井氏
 ノ將・磯野丹波之ニ居ル、又米原驛ノ南ニ下矢倉村アリ、
 北國街道ト中仙道トノ岐分點ナリ、其南ニ鳥居本驛口
 約一千アリ、合羽ヲ名産トス、中仙道ノ驛次ナリ、永正七
 年、六角定頼磯山城ヲ救ヒ、京極氏ノ兵ト戰ヒ、古戰場
 ナリ、又矢倉村ノ東ニ磨鉢峠アリ、中仙道ノ通スル處ナ
 リ、西坂ハ急コシテ六丁許、東坂ハ緩コシテ險ナラス、頂
 上ニ客舎數戸アリ、琵琶湖ノ景色柵席ノ下ニ淺リ、風光
 頗佳ナリ、兵理上ヨリ論スレハ西ニ面スル好陣地トス、

豐臣秀秋
陣地
井伊直政
陣地
番場驛

淺井亮政
陣地

久徳故城
址

關原役ノ後、東軍ノ將・豐臣秀秋・井伊直政等此ニ陣シ、佐
 和山ヲ攻ム、之ヲ險レハ番場驛ナリ、元弘三年、北條仲時
 時益・六波羅ニ敗レ、兩上皇・新太子ヲ奉シテ東走シ、此驛
 ニ至レハ土寇ノ要撃スル所ト爲リ、進退維谷リ、一族悉
 佛寺ニ入り自殺ス、仲時ノ墳墓ハ山上ニ在リ、此山ヲ六
 波羅山ト名ク、淺井亮政・六角氏ト戰ヒ、此山上ニ陣セ
 シトアリ、
 第四 善利川一名大堀川ハ、源ヲ本靈山坂田郡及土岐山
 郡大上ニ發シ、河内村ニ至テ相合シ、濼洄シテ久徳村ノ南
 ナ過ク、久徳故城アリ、久徳左近太夫ノ居城ナリ、永祿三
 年、高宮ノ城主・高宮勝義・淺井長政ニ降リ、此城ヲ攻メ、自
 効ヲ爲サソフヲ請ヒ、佐和山ノ城主・新庄駿河ノ兵ヲ合

シ來リ攻ム、左近太夫之ニ死シ、城陷レ、次テ大堀村ニ至リ、中山道ヲ横截ス、橋アリ、大堀橋一長四十間、橋ト云フ、木橋ナリ、村ノ北ニ於テ二派ニ分ル、北派ハ里根村ノ南ヲ過キ、彦根・中敷村一人口約ノ西南ヲ經、南派ハ山脇・平田ノ二村ヲ過キ、共ニ湖ニ入ル、水路五里、濶三十間ヨリ五十間ニ至ル、

彦根町

彦根ハ國內第一ノ城市ニシテ、廢藩以來市街漸ク衰ヘ、人口凋零セリト雖、尙、戸數七千餘、人口大約二萬七千四百アリ、富庶繁華、警察署、裁判所、電信分局、郡役所、大上學校、銀行等アリ、北湖畔ニ追ル、此邊ヲ千々、松原ト云フ、松原村千八口約一アリ、彦根ノ港口ナリ、大津ヲ距ル湖上十五里、漁船アリ、日夜往復ス、東北ニ佐和山アリ、山上ニ佐和

松原村

佐和山古
城址

山ノ故城アリ、永正中、磯野員吉之ヲ守ル、員吉死シ、子員正相繼テ居ル、元龜元年、信長・淺井長政ヲ姉川ニ破リ、遂ニ此城ヲ圍ム、員正固守、信長兵ヲ留テ去ル、二年、員正・城ヲ離ス、信長・丹羽長秀ヲ置ク、天正十一年、秀吉・堀秀政ヲ本國ニ封シ、此城ニ居ラシム、其後、石田三成之ニ居ル、慶長五年、徳川家康・三成ヲ關原ニ破リ、進テ此城ヲ攻ム、三成ノ叔父・兄留守拒戦ス、井伊直政等急撃シ、城遂ニ陷ル、明年、家康・井伊直政ヲ本州ニ徙シ、此城ニ居ラシム、城狹小ナルヲ以テ、九年直政ノ子直勝ニ命シ、之ヲ彦根ノ金龍山ニ移シ、鎮カシム、今ノ城郭是レナリ、子孫世襲之ニ治シ、以テ明治維新ニ至ル、其建築巨大ニシテ、今尙存スト、雖、日々荒廢スルノミ、

第五 犬上川ハ高宮川或ハ名取川又不知川ト名ク、水源ニアリ、一ハ上山本村大物山愛智郡ヲ發シ、北流シテ八尾山ノ東麓ヲ過キ、君畑越ヨリ下ル溪水ヲ受ケ、伊勢ニ通スル間道ヲ開ク、次テ折テ西ニ向ヒ、一瀬村ノ北ヲ逸ル、一ハ燒尾越一名大君畑越ニ發シテ西流シ、亦伊勢ニ通スル間道ヲ開キ、佐日村ヲ過キ、二水、河相村ノ西ニ至リ相會シ、西北ニ流レ高宮驛ヲ過ク、橋アリ高宮橋長六四尺一圓ト云フ、木橋ナリ、國道線中仙ニ臨ム、驛次ナリ、豪商多シ、麻布ヲ名産トス、驛内ヨリ、岐路ヲ分ツ、華表アリ多賀神社ニ通ス、又故城アリ、高宮三河ノ墟ナリ、六角・淺井二氏ノ境界ニ在ルヲ以テ、二氏屢之ヲ爭ヘリ、次テ西ニ曲リ、宇尾村ニ至テ、朝鮮人街道ヲ横截ス、河幅六十間、

高宮驛

高宮古城

舟梁ナク徒涉スベシ、次テ又西北ニ轉レ、八坂村ノ北ニ至テ湖ニ入ル、水路六里、濶三十間ヨリ八十間ニ至ル、多賀神社ハ多賀村人口約一干ヨリ、關原ノ役ニ西軍敗レ、島津義弘・五僧越テ險ヲ退キ、此村ニ至テ散卒ヲ集ムト云フ、

第六 宇曾川ハ、一ニ鶯川ニ作ル、小流ナリ、水源ニアリ、一ハ裸山ヨリ發シ、一ハ平柳平柳僧坊二村間ヨリ發シ、島川村ニ至テ相會シ、吉田村ニ至テ斧磨山ヨリ出ル、溪流ヲ合セ、石橋村ニ於テ、國道ヲ横截ス、橋アリ歌語橋長十三間ト云フ、木橋ナリ、次テ西北ニ向テ流レ、肥田村ノ北ヲ過ク、古城址アリ、天文中、六角義弼之ニ據ル、永祿三年、高野瀬某之ヲ守ル、淺井長政・佐和山ノ兵ヲシテ之ヲ攻メ

肥田古城

取ヲシム、天正十一年、豊臣秀吉・長谷川秀一ヲ封シ之ニ
 居ラシム、次テ犬上郡ニ入り、日夏村ニ至リ、朝鮮人街道
 ナ横截ス、橋アリ、天滿橋、幅長十八間三尺ト云フ、木橋ナリ、
 次テ三ツ屋村ニ至テ湖ニ入ル、水路長カラス、此川國境ノ
 山脈ヨリ發シス、國內ノ小山ヨリ出ツルヲ以テナリ、
 第七 愛知川ハ、釋迦嶽ヨリ下リ、杜葉尾村ノ東ニ於テ
 杜葉尾川ヲ受ケ、愛知・神崎ノ郡界ヲ畫シ、山間ニ在テ曲
 折西流シ、佐目村ノ北ニ至テ、君畑川ヲ容レ、和南川ト爲
 リ、更ニ溪水ヲ集メ、高野村ノ南ヲ過ク、古城址アリ、秀吉
 信長ノ庶子羽柴武藏守ヲ置ク、慶長ノ亂ニ石田三成ニ
 與ミシニ亡フ、次テ山上村千八百約一ノ北ヲ過ク、繁邑ナリ、
 茶ヲ名産トス、元祿年中、稻垣重定ヲ封シ、世々之ニ治ス、

高野古城址

山上村

江城址

次テ餘江村ノ南ヲ過ク、古城アリ、餘江城ト云フ、永祿十
 一年、信長・淺井長政ト連和シ、六角氏ヲ攻メ、數城ヲ降ス、
 六角義賢・義弼此城ニ保ム、元龜元年、信長・朝倉義景ヲ越
 前ニ攻ム、淺井長政・義景ヲ援ク、信長兵ヲ引テ、若狹ヨリ
 西近江ノ山中ヲ經テ、京師ニ走リ、美濃ニ歸ラントス、六
 角義賢之ヲ此城ニ要ス、次テ、愛知川驛一千口約ニ至リ國
 道中山ヲ横截ス、橋アリ、御幸橋、間幅百二十七ト云フ、木橋
 ナリ、愛知川驛ハ國道ノ驛ニシテ煎茶ヲ名産トス、警察
 署、郡役所愛智郡管治スニアリ、川ヲ隔テ、對岸ニ中村アリ、
 御代參街道ノ岐點ナリ、其東大約二里ニ八日市驛アリ、
 御代參街道ノ驛次ナリ、古來毎月八日ニ四方ヨリ諸商
 相集テ市ヲ爲ス、故ニ名ク甚繁邑ナリ、是ヨリ下流ハ神

愛知川驛

八日市驛

和田山城

崎郡ニ入り、和田村ノ東ヲ過シ、村ノ山上ニ故城アリ、六角義弼此城ヲ築キ、田中治部大輔ヲ置テ之ヲ守ラシム。永祿十一年、信長・淺井長政ト連和シ、六角氏ヲ攻ム、此城其第一衝ニ當ルヲ以テ守備ヲ嚴ニス、信長道ヲ轉シ先々箕作城ヲ援ク、城兵之ヲ聞キ城ヲ開キ去ル、次テ今村ト服部村トノ間ニ於テ、朝鮮人街道ヲ横截ス、此邊河幅百四十四間、橋梁ヲ架ス可ラス、時アリ舟渡ナリ、時アリ徒渉スヘシ、次テ福堂村・新海村ノ中間ヲ過テ湖ニ入ル、水路十里、濶二丁ヨリ六丁ニ至ル、此河平時ハ涸渴シ砂磧磊砢、然レモ大雨一タヒ至レハ乍ナ漲溢シ、渡ル能ハス、行旅皆迂廻シテ道ヲ河口ニ取り、福堂・新海二村間ノ船渡ニ於テ之ヲ渡ルト云フ、河口ノ西南ニ當リ湖邊ニ島

八幡山城

八幡町

安土城址

嶼數多アリ、沖島・奥島最大ナリ、奥島ニ長命寺山アリ、之ニ對シテ湖畔ニ安土山・八幡山アリ、三山鼎足ノ狀ヲ爲ス、其八幡山ハ高凡二百二三十間、豐臣秀次ノ城址ナリ、相傳フ天正十三年、秀次之ヲ築クト、本丸・二・三ノ郭等依然トシテ存在ス、山下ニ八幡町人口約六百アリ、一葦水ヲ隔ツ、之ヲ船入川ト名ク、葦古ノ城隍ナリ、大手橋等ノ名今尙存ス、八幡町ハ一方ノ繁邑ニシテ、民皆商賈ヲ業トシ、豪富櫛ヲ連ヌ、警察署、郡役所蒲生、學校、八幡神社等アリ、壯麗ナリ、蚊帳・墨表ヲ名産トス、其安土山ハ八幡町ノ東一里ニ在リ、高二丁許周圍一里半餘、頂上ニ天守アリ、其遺跡今尙顯然ナリ、天正四年、信長・丹羽長秀ニ命シテ漸ニ此城ヲ築シメ、岐阜ヨリ徙リ居ル、葦上杉謙信ニ備

フルナリ、十年、明智光秀・信長ヲ本能寺ニ弑ス、城中其凶
音ヲ聞キ退キ去ル、光秀・明智左馬助光春ヲシテ之ニ代
リ守ラシム、幾モナクシテ光秀誅ニ伏シ、光春城ヲ燒キ、
坂本ニ退ク、其觀音寺山ハ一ニ衣織山ト名シ、安土山ノ
東南ニシテ、蒲生・神崎ノ郡界ニ在リ、坂路十八丁許、直立
六十間、山上ニ城址アリ、鶴鷄城ト稱ス、佐々木氏世、本國
ノ守護ト爲リ此城ニ居ル、壘石基礎仍然タリ、義賢ニ至
リ、永祿十一年、信長・足利義昭ヲ助ケ、京師ニ入ラントス、
義弼・三好三黨ニ與ミシ、自此城ニ居リ、和田山・箕作等十
八城ヲ修メ、之ヲ拒ム、信長・箕作城ヲ襲ヒ、之ヲ拔ク、義賢・
義弼夜城ヲ棄テ遁ル、信長三日ニシテ十八城ヲ下シ、此
城ニ入テ政ヲ國中ニ爲ス、觀音寺山ノ東ヲ距ル十丁許、

鶴鷄城址

箕作城址

音羽古城

中野城址

山本村ニ箕作山アリ、高、直立五十間許、山上ニ箕作城ノ
墟址アリ、信長・六角氏ヲ攻メ、木下秀吉・丹羽長秀等先鋒
ト爲リ、奇襲シテ卒ニ之ヲ拔ク、他ノ諸城風ヲ望シテ解
キ去ル
第八 仁保川ハ、上流ヲ日野川ト云フ、源ヲ金剛峯ニ發
シ、左右ノ諸山ヨリ發スル瀉流ヲ集メ、音羽村ノ南ヲ過
ク、古城址アリ、蒲生智閑ノ居城ナリ、庭石井水基礎今尙
存ス、次ヲ西大路千七百約一ノ南ヲ過ク、市橋氏ノ舊城市
ナリ、古來仁正寺ニ作リシカ、文久年間佛寺ニ類スルヲ
嫌ヒ、今ノ文字ニ改ム、山上ニ故城アリ、中野城ト名ク、蒲
生氏世々之ニ居リ、六角氏ニ屬ス、賢秀ニ至リ觀音寺城
陥リ、信長ニ降ル、天正十二年、秀吉氏卿賢秀ヲ伊勢ノ松

日野町

島松ノ改封ス、元和年間、市橋氏ヲ封ス、西大路ノ西ニ一市街アリ、相連ナル之ヲ日野町千七百約四ト云フ、豪富軒ヲ比ヘ、皆商賈ヲ業トシ、支舖ヲ諸國ニ置キ、本地ニ販賣セス、世人之ヲ日野商ト呼フ、左岸ニ鎌掛アリ、日野ヲ距ル約一里、甲賀郡界ニ位ス、御代參街道ノ驛次ナリ、郡界ニ東脈ヨリ支分スル岐脈アリ、道路急峻此街道ノ要害ナリ、六角義彌・觀音寺城ヲ退去スルノ後、築ヲ此ニ構フ、鎌掛驛ヨリ道路三條ヲ發ス、一ハ西大路ニ、一ハ日野ニ、一ハ石原ニ通ス、此第三者ハ所謂御代參街道ナリ、次ヲ石原驛・岡本驛ノ南ヲ流レ、次ヲ葛卷村ノ北ヲ過ク、葛卷故城アリ、葛卷某ノ墟ナリ、次ヲ林村ノ北ヲ過ク、林故城アリ、赤星隼人ノ墟ナリ、次ヲ横山村ニ至リ、佐久良川

鎌掛驛

葛卷故城

林故城

中郷故城

ヲ合ス、佐久良川ハ氷源ニアリ、一ハ小野村ノ山間ニ發シ、一ハ河原村ノ山間ニ發ス、此二水・中郷村ニ至テ相會ス、中郷故城アリ、一ニ佐久良城ト名ク、小倉兵庫助之ニ居リ、六角氏ニ屬ス、後・蒲生定秀ノ爲メニ滅サル、次テ日野川ニ平行シテ西流ス、右岸ニ荒野アリ、長谷野ト名ク、二川相會シテ、横關川・仁保川ト爲リ、東横關・西横關ノ二村間ニ於テ國道中山ヲ横截ス、橋アリ、横關橋長十四間ト云フ、木橋ナリ、東横關村ノ東・馬淵村ニ於テ中山道岐路ヲ分テ、朝鮮人街道ニ連ナル、更ニ東ニ武佐驛アリ、驛ノ東南ニ荒野アリ、蒲生野ト云フ、東西六丁南北十五丁、古甚、曠漠タル荒原ナリ、荻萩野ト名ク、天智天皇此野ニ縱獵シ玉フ、王子大臣之ニ從フ、天武天皇元年秋七月多

蒲生野
長光寺故
城址

臣品治ニ命シ、三千衆ヲ率ヒ刺萩野ニ屯スト、即是ナリ、
 今ハ大ニ開墾セリ、蒲生野ノ東ニ又長谷野・沖野ノ二荒
 原アリ、廣袤共ニ蒲生野ニ等シ、地勢凸凹波狀ヲ爲シ、演
 習地ニ宜シ、明治十七年、名古屋鎮臺ノ兵此野ニ於テ、旅
 團對抗運動ヲ行ヘリト云フ、驛ノ西・長光寺村ノ山上ニ
 長光寺故城アリ、元龜元年、信長・柴田勝家ヲシテ此城ヲ
 守ラシム、六角承禎之ヲ攻メ、却テ勝家ノ爲ニ破ラル、次
 テ野洲郡ニ入り永原村ノ北ヲ過ク、此村朝鮮人街道ニ
 臨ミ、古時有名ナリ、慶長五年九月十七日、家康陣ヲ永原
 ニ移スト即此地ナリ、然レモ永原御殿跡ト稱スル處ハ
 此村ニ在ラスシテ、之ヲ距ルヲ西四五丁、北村ノ内ニ在
 リ、御殿ト稱スト雖モ其實ハ城郭ナリ、元龜元年、信長・佐

家康陣

永原城址

久間信盛ヲ守ラシム、天正年中、永原越前守重
 尾ト云フ者アリ、之ニ居ル、秀吉ノ時、深尾清十郎ヲ置ク、
 徳川氏ニ至リ、更ニ工ヲ起シ、二、九三、九ヲ増築シ、其牙城
 ノ隅樓ハ伏見ノ城ヨリ移シ、其旅營ニ當ツ、後命シテ撤
 セシム、今僅ニ壘石ノ遺形ヲ存スルノミ、永原村ノ北・小
 南村ト、十王村トノ間ニ於テ、朝鮮人街道縣ヲ横截ス、橋
 アリ仁保川橋長一四八尺間ト云フ、木橋ナリ、次テ野村ニ
 至リ湖ニ入ル、水路九里餘、濶三十間ヨリ五十間ニ至ル、
 第九野洲川一ニ横田川ト稱ス、氷源ニアリ、一ハ伊勢
 ノ鈴鹿山ニ發シ、土山驛ニ至ル、之ヲ田村川ト名ク、一ハ
 大河原三瀧岳ノ山中ニ發シ、土山驛ノ北ニ出ツ、之ヲ松
 尾川ト名ク、土山千八口約一ハ東海道ノ一驛ニシテ、岐路

水口

ヲ分ツ、之ヲ御代參街道ト名ク、伊勢宗廟御代參ノ勅使、
 歸路此道ニ依テ多賀神社ニ巡拜スルヲ以テ名ク、土山
 ノ西ニ至テ二水相會シ、東海道ニ沿テ西流シ、水口水口約四
 百八ノ南ヲ過ク、東海道ノ驛次コシテ繁邑ナリ、警察署、
 電信分局、郡役所郡甲賀アリ、籐細工、干瓢、茶ヲ名産トス、要
 害ノ地ト稱ス、古來難ヲ避ケ甲賀ノ山中ニ隠ルト、多ク
 ハ皆此地ナリ、城初岡山ト名クル山上ニアリ、佐々木氏
 屢割據ス、關原ノ役ニ長束正家之ニ據ル、徳川氏・池田輝
 政ヲシテ之ヲ攻メシム、正家降ル、是ニ於テ城ヲ廢ス、寛
 永ノ初、徳川氏再々今ノ地ニ築テ鎮城トス、其後加藤明友
 ヲ封シ、累世之ニ居ラシメ、以テ明治維新ニ至ル、現今ハ
 廢城ニ屬ス、次テ田川村ノ上ニ至リ、柚川ヲ合シ、水勢漸ク

柚庄ノ

柑子故城

市原故城

廣シ、柚川ハ源ヲ油日山ニ發シ、西北ニ向テ流レ、油日越
 ヲ開キ山谷間ヲ過ク、古此邊ヲ柚庄ト云フ、壽永三年、平
 家ノ餘黨伊賀ヨリ來リ侵シ此地ニ陣ス、佐々木源三秀
 義之ヲ討テ、勝ヲス之ニ死ス、此凹谷中ニ於テ、左右ノ山
 ヨリ發スル數多ノ溪水ヲ集ム、其一水、内保越ヲ開ク者
 ハ柑子村ヲ過ク、柑子故城アリ、望月氏世ノ居城ナリ、元
 龜年中、信長ノ爲ニ滅サルト云フ、次テ市原村ノ北ヲ過
 ク、市原故城アリ、南北朝ノ時佐々木高秀兵ヲ置テ守ラ
 シム、正平十五年、官軍ノ將石堂・仁木等伊賀・伊勢ノ兵ヲ
 起シ來リ攻ム、利アラヌ、元龜元年、六角義賢兵ヲ置テ信
 長ノ歸路ヲ要ス、横田川ニ會シ泉村ニ至テ東海道ヲ横
 截ス、時アリ假橋アリ、時アリ船渡ナリ、河幅百八十間、水

石部

一定セズ、平時ハ揭裳シテ渉ルヘク、然レモ潦時ハ怒漲ス、是レ定橋ナキ所以ナリ、次テ西流シ石部千八百約二ノ北ヲ過ク、東海道ノ一驛ナリ、石灰、陶器ヲ産ス、次テ方向ヲ轉シ、菩提寺山ノ麓ヲ流レ、野洲郡ニ入テ野洲川ト稱シ、三上山ノ西麓ヲ過ク、右岸ニ三上村ヲ存ス、陣屋跡アリ、元祿年中、遠藤胤親ヲ封シ、世之ニ治ス、王政革新ノ初、遠藤氏和泉ニ移リ、山形前ノ水野氏ヲ徙シテ朝日山藩ヲ建ツ、幾クナラス之ヲ廢ス、次テ野洲村ニ至リ、中山道ヲ横截ス、時アリ橋アリ、時アリ舟渡ナリ、河幅三百九間、河水常ナシ是レ定橋ヲ架ス可ラサル所以ナリ、次テ河水二派ニ分レ、一ハ北流シテ吉川村ニ至リ湖ニ入ル、之ヲ野洲ノ北流ト云フ、一ハ西流シテ今濱村ニ至リ湖ニ入ル、

木濱故城

守山

守山故城

金森故城

之ヲ野洲ノ南流ト云フ、水路十五里濶二丁ヨリ五丁ニ至ル、此川ノ水源ハ多ク、藉山ナルヲ以テ平常ハ流水多カラス、然レモ大雨ノ時ハ忽、漲溢シテ橋梁ヲ流シ、屢行テ絶ツ、南流ノ河口ニ木濱村一千約アリ、港津ナリ、西、堅田ニ渡ル湖上十八丁、木濱故城アリ、近藤秀成ノ墟ナリ、永祿十一年、秀成此城ニ據テ六角氏ニ叛キ、信長ニ應ス、第十 狐川ハ、小流ニシテ、平常ハ涸渴シ流水ヲ見ス、源ヲ伊勢、落村ニ發シ、横田川ノ餘派ヲ受ケテ西流シ、野洲、栗太ノ郡界ヲ盡シ、守山驛千三百約一ヲ過ク、故ニ又守山川ノ稱アリ、中山道ニ臨ム驛次ナリ、守山故城アリ、信長、稻葉一徹齋ヲ置テ守ラシム、元龜元年、土寇蜂起シ、此城ヲ攻ム、稻葉擊テ大ニ之ヲ破ル、驛ノ西、金森村ニ金森故

伊岐洲城址

城アリ、土俗相傳フ川邊藤左衛門秀政ノ居城ナリト、秀政、敏山ニ應ス、元龜二年、信長・佐久間信盛ヲシテ之ヲ攻メシム、秀政降ル次ヲ長束村ノ北ヲ過ク、大藏屋敷跡アリ、長束大藏大輔正家之ニ住セリト云フ、次ヲ下物村ニ至リ湖ニ入ル、河口近傍芦浦村ニ故城アリ、伊岐洲城ト云フ、建武二年、山法師・成願坊俄ニ此城ヲ構ヒ、三百騎ヲ以テ之ニ據ル、賊將高師直大軍ヲ率ヒ來リ攻メ、一日一夜ニシテ遂ニ城ヲ拔ク、

第十一 草津川亦小流ナリ、水源ニアリ、一ハ鷄冠山及駒坂山ニ發シ、桐生村ヲ過ク、之ヲ桐生川ト云フ、一ハ金勝山ニ發シ、之ヲ金勝川ト云フ、安養寺村ヲ過ク、長享元年、將軍義尙・六角高頼ヲ討ツ、高頼敗レ走テ甲賀ノ山中

將軍義尙陣地

鈎ノ里

草津驛

草津ノ里

ニ應ル、義尙一旦此地ニ陣シ、既ニシテ鈎里ニ移ル、鈎里トハ其北方ニシテ上鈎、下鈎、寺内等數村ノ惣稱ナリ、次ヲ岡村ニ至リ二水相合シ草津川ト爲リ、草津驛三口約ヲ過ク、繁邑ナリ、郡役所栗太野洲スニアリ、東海・東山兩道ノ分ル、處ニシテ、地要衝ニ當リ、市街客舍多シ、然レモ近來旅客漸減シ、稍衰微ノ狀ヲ現ハス、永正十年、大内義興兵三萬五千ニ將トシ本州ヲ討ツ、高橋三河守・相良遠江守先鋒トシ來テ此地ニ陣ス、本州ノ人青地茂高潜カニ守山ニ至リ、且日其怠ニ乘シ火矢ヲ射テ草津ノ民家ヲ燔ク、高橋ハ勢多ニ、相良ハ矢橋ニ敗走ス、驛中ニ常善寺ト稱スル佛刹アリ、古時有名ナリ、延徳年中、將軍義尙鈎里ノ本營ヲ移シ、此寺ニ館ス、天正十年、秀吉・明智光秀ヲ

下笠故城

誅シ、制札ヲ此寺ニ掲ク、慶長五年、關原役後家康上洛ノ途此寺ニ館ス、諸將石田三成等ヲ擒ニシ來リ獻ス、次テ下笠村ヲ過ク、下笠故城アリ、下笠彌實ナル者ノ居城ナリ、永祿九年、青地茂綱ト戰フテ死ス、城址今田畑ト爲ル、次ニ北山田村ニ至リ湖コ入ル、北山田村ハ津渡ナリ、流船アリ日々大津ニ往來ス、

野路村

第十二 狼川亦小流ナリ、源ヲ平野村ノ山中ニ發シ、野路村ノ南ヲ過ク、古ハ繁昌ナル驛市ナリ、今ハ村落ニ遇キス、治承四年、小松亮盛・薩摩守忠度追討使トシテ北國ニ下ル時、建久年中源頼朝上洛ノ時、曆仁年中藤原頼經入洛ノ時皆此地ニ宿ス、承久ノ亂ニ北條時房・泰時亦此地ニ陣ス、其東海道ヲ横截スル處ニ木橋ニ長七間幅三尺架

北條時房 陣地 北條泰時 陣地

矢橋村

ス、次テ矢橋村千五百約一ニ至リ湖コ入ル、矢橋ハ大津ニ渡ル港ナリ、古來有名ナリ、

小川故城

第十三 大戸川ハ、一ニ信樂川又田上川ト稱ス、水源ニアリ、一ハ甲賀郡・信樂郷・杉山村ノ山間ニ發シ、一ハ多羅尾村ノ山間ニ發シ、之ヲ大川ト稱ス、小川村ヲ過ク、小川故城アリ、多羅尾道可ノ城跡ナリ、二川・長野村ニ於テ相會シ、勅旨村ヲ過ク、天平寶字五年、仲恭帝都ヲ近江國保

勅旨村

信樂郷

良ニ遷シ玉フト、即此地ナリ、帝此地ニ在シテ勅ノ旨アリケレハ終ニ以テ村名トスト云フ、次テ折レテ山間ヲ西流ス、此地ヲ信樂郷ト稱シ、山間ニ在テ一小世界ヲ爲スモノ、如シ、次テ栗太郡コ入り、雞冠山ノ南ヲ過キ、大鳥居村ヲ過キ、大戸瀧ト爲リ、羽栗村ノ北ヲ過ク、羽栗故

羽栗故城

里村故城

城アリ、佐久間久右衛門ノ墟ナリ、次テ里村ノ北ヲ過ク、
 里村故城アリ、多羅尾道可ノ墟ナリ、次テ黒津村ニ至テ
 勢多河ニ會ス、水路七里、濶三十間ヨリ五十間ニ至ル、
 第十四 勢多河ハ琵琶湖ノ瀾口ナリ、南流シテ栗太・滋
 賀ノ郡界ヲ畫シ、京師ヲ守ルノ一大防禦線ヲ爲ス、橋本
 村ニ二橋ヲ連架シ、東海道ヲ通ス、所謂勢多唐橋是ナリ、
 其東ナル者大橋長九十六間ト云ヒ、西ナル者小橋長七十二間
 幅ト云フ、兩橋ノ中間ニ中島長十五間アリ、二橋ト云フト
 雖也、其實一大長橋長一百三十八間ナリ、此河線中本州ニ在テ
 獨、此一橋アルノミ、故ニ此河線ノ鎖鑰ト稱ス、是古來屢
 戰場ト爲ル所以ナリ、白鳳元年、天武天皇・大友皇子ト此
 ニ戰ヒ玉フ、皇子敗死ス、天平寶字八年、惠美押勝叛シ宇

勢多唐橋

勢多古觀

治ヨリ奔テ近江ニ據ラントス、近江守日下部子麻呂・右
 衛門少尉佐伯伊多智等田原道ヲ取リ、先、近江ニ至リ、勢
 多橋ヲ燒キ、之ヲ要ス、押勝渡ル能ハス、高島郡ニ走ル、壽
 永二年、平知盛・木曾義仲ト戰ヒ敗走ス、三年、源範賴・賴朝
 ノ命ヲ蒙テ洛コ入り、義仲ヲ討ツ、義仲・今井兼平ヲシテ
 此ニ屯シ、以テ之ヲ防カシム、承久ノ役ニ北條時房・義時
 ノ旨ヲ承ケ京師ヲ侵ス、官軍ノ將・山田次郎重忠等此ニ
 軍シ、一戰ニ敗績ス、建武ノ役・足利尊氏關東ヨリ來リ關
 ヲ犯ス、名和長年此ニ陣シ之ヲ防ク、東軍競ヒ到ル、長年
 兵潰ヒ京師ニ歸ル、天正元年、足利義昭・信長ヲ討テ、此橋
 ヲ引テ石山ニ據ル、十年、明智光秀・信長ヲ弑シ安土城ヲ
 取ラントス、勢多ノ城主・山岡美作守景隆勢多ノ橋二十

勢多城址

間餘ヲ燒キ其道ヲ絶ツ、勢多城址ハ勢多橋ノ東南ニ在
 リ、初、山岡美作守之ニ居リ、十一年、秀吉、淺野長政ヲ封シ
 之ニ居ラシム、關原ノ役ニ立花左近將監西軍ニ與ミシ、
 此城ニ在リト、其後城主ヲ見ス、蓋、此時代ニ廢セシナラ
 シ、此邊總テ勢多郷ト稱ス、古ハ驛ニシテ頗繁盛ノ地ナ
 リ、上世本州ノ國府ヲ栗太郡ニ置クト、即、此地ナリ、勢多
 橋ノ下流、黒津村ニ徒涉橋アリ、貢御、瀬ト名シ、河幅百四
 十一間アリ、此處河底隆起シテ龜甲狀ヲ爲シ、上下十間
 許ノ間淺瀬ナリ、餘ハ上下共ニ深クシテ渡ル可ラス、源
 範賴勢多ニ向フ、敵橋ヲ引キ道ヲ絶ツ、稻毛三郎重成、榛
 谷四郎重朝先鋒ト爲リ、此淺瀬ヲ渡リ石山ニ攻メ上ル、
 承久ノ亂ニ後鳥羽帝諸將ヲシテ北條氏ノ兵ヲ宇治、勢

兵要地誌

近江國誌

多ニ拒カシム、北條相模守時房ハ勢多ニ向ヒ、其將武田
 五郎信元ヲシテ此淺瀬ニ向ハシム、天正元年、足利義昭
 假リニ石山ニ城キ、勢多橋ヲ引ク、柴田勝家此淺瀬ヲ渡
 リ石山ニ迫ル、山岡光淨院降り城陥ル、慶長以來幕府毎
 年監察ヲ派遣シ、此淺瀬ノ深淺廣狹ヲ點檢セシムト云
 フ、次テ大戸川ヲ受ケ、東村ニ至テ東村川ヲ容レ、次テ本
 州ヲ去リ、山城國ニ入テ宇治川ト爲ル、勢多橋下ヨリ州
 界ニ至ル、水路二里三十一丁、濶二丁餘、

右岸ノ諸川近江ニ在ル者

右岸即西近江ハ、山脈近ク湖邊ニ迫マルヲ以テ、土地狹
 窄河流皆長カラス、左ニ其諸川ヲ掲ク、
 第一 鹽津川ハ、源ヲ新道村越前郡ノ山中ニ發シ、南流

兵要地誌

日本部

近江國誌

鹽津港

シテ沓掛越ノ山路ヲ開キ、沓掛村ノ西ヲ遶リ、盤曲シテ鹽津ニ至リ、湖ニ入シ、鹽津ハ琵琶湖ノ極北ニ在ル港市ニシテ、越前敦賀ニ至ルノ要路ニ當リ、流船港口ニ碇泊ス、延元元年、冬、新田義貞皇太子ヲ奉シ、湖ヲ渡リ、越前ニ下ル時、海津及此港ニ着ク、足利高經大軍ヲ以テ險路ヲ塞クト聞キ、問道ニ迂回シ、大雪ニ遇ヒ、士馬多ク凍死ス、土居得能三百騎ヲ率ヒ、後拒テ爲シ、道ニ迷テ、義貞ヲ失シ、敵將、佐々木・熊谷ト鹽津ノ北ニ戰フテ敗死ス、

第二 大浦川ハ、源ヲ越前境ノ山間ニ發シ、南流シテ大浦越ヲ開キ、次テ東ニ轉シ、山門村ノ西南ヲ遶リ、大浦村ニ至テ湖ニ入ル、

第三 知内川ハ、水源ニアリ、一ハ野口村ノ山ニ發シ、一

海津港

ハ在原山ニ發シ、下村ノ西ニ至リ、二水相合シテ南流シ、蛭口村ノ東ヲ過キ、西近江路縣ヲ横截ス、橋長十八尺、間三寸アリ木橋ナリ、次テ知内村ノ東ニ至テ湖ニ入ル、河口ノ東ニシテ、湖ノ北畔ニ海津千人約一アリ、敦賀ニ至ル要港ナリ、

第四 百瀬川ハ、源ヲ若狹ノ栗柄山ニ發シ、南ニ向テ山間ヲ曲流シ、森西村ノ西ニ至テ、方向ヲ東ニ轉シ、澤村ニ至テ、西近江路縣ヲ横截ス、橋長十二尺、間二尺アリ、圮橋ナリ、平常ハ氷至テ、樹ク、袋ヲ掲テ、渉ルヘシ、次テ知内村ノ南ヲ過キ、湖ニ入ル、

第五 石田川ハ、水源ニアリ、一ハ角川村ノ北ニ發シ、東南ニ流レ、一ハ途トチニツダコ中谷村ノ山ニ發シテ、西北ニ流レ、保坂

今津港

村ノ北ニ至テ、二水相合シ、若狹街道ニ沿テ東流シ、福岡村ニ至テ西近江路ヲ横截ス橋幅一十間アリ木橋ナリ、次テ今津ノ北ヲ經、濱分村ニ至テ湖ニ入ル、今津一人口約百ハ湖畔ニ臨ム港市ニシテ、若狹ノ小濱ニ至ル要路ナリ、

第六 安曇川ハ、源ヲ山城界ノ山中ニ發シ、途中越テ開キ、國境ノ山脈ニ平行シテ長凹谷ヲ通ス、之ヲ滋賀郡ニ在テハ龍華途中谷ト名ケ、高島郡ニ在テハ朽木途中谷ト名ケ、若狹ヨリ京師ニ至ル間道ノ通スル處ナリ、朽木谷ハ山間ノ一郷ニシテ、別ニ一小域ヲ爲スモノ、如シ、此谷ニ於テ三國嶽川・朽木川・磯轡川等ノ溪流ヲ集ム、其朽木川ハ、市場村ヲ過ク、古ハ朽木市場ト稱ス、山上ニ朽

朽木故城址

野尻村

新庄城址

北舟木城址

木故城アリ、朽木氏世之ニ居レリ、次テ野尻村ノ東ニ至リ、折レテ東ニ流ル、野尻村ノ山頂ニ砦址アリ、元祿元年、將軍足利義晴・三好長慶ヲ避ケ、朽木谷ニ匿レ朽木氏ニ依ル、細川晴元來リ攻ム、朽木氏此砦ヲ據ル之ヲ防ク、次テ河原市驛ノ南ヲ過キ、次テ新庄村ニ至テ西近江路ヲ横截ス、橋アリ安曇川橋間幅二十間ト云フ、木橋ナリ、村ニ古城址アリ新庄實秀ノ墟ナリ、次テ河島村ニ至テ二派ニ分ル、其北派ハ安曇川ノ名ヲ存シ、北舟木村ノ北ニ至テ湖ニ入ル、南派ハ新庄川ト稱シ、南北舟木二村ノ間ニ至テ湖ニ入ル、水路約十里、濶一丁餘、湖西第一ノ大河ナリ、北舟木村ニ古城址アリ、平城ナリ、佐々木能登守ノ居城ナリ、信長ノ爲ニ滅サル、此川ト石田川トノ間ニ荒野

武曾城址

横山城址

五番領村城址

アリ、櫻庭野ト名ク、東西一里十五丁南北一里九丁、第七 鴨川ハ源ヲ鹿瀬ノ山中ニ發シテ東流シ、左岸ニ武曾村ヲ存ス、古城アリ、横山下野守ノ居城址ナリ、其西北ニ荒野アリ、泰産寺野ト云フ、東西一里南北十五丁、次テ宮野村ノ北ヲ過ク、古是祥坊ト云フ比叡山ノ僧徒之ニ住シ、佐々木・淺井ニ屬ス、後信長ノ滅ス所ト爲ル、其左岸横山村ニ古城アリ、佐々木高長ノ居城址ナリ、次テ鴨村ニ至リ、横山村ノ西ヨリ出ル一水ヲ合シ、西近江路ヲ横截ス、橋一長十四間幅アリ木橋ナリ、此邊河幅三十五間アリ、河水晴雨ニ依テ増減ス、其北五番領村ニ五番領故城アリ、平城ナリ、山崎兵庫ノ墟ナリ、信長ノ爲ニ滅サル、次テ下小川村ニ至リ湖ニ入ル、河口ノ南ニ勝野村約八口

大溝古城

長寶寺故城址

永田故城址

百千九アリ、大溝ト稱ス、湖畔ニ臨ム港市ニシテ、古來城アリ、大溝城ト名ク、初佐々木ノ臣磯野丹波守之ニ居リ、後織田七兵衛信澄信長姪暫ク之ニ居ル、其後中絶、元和年間、分部光信ヲ封シ世襲ス、又此城址ヲ距ル四五丁ニシテ、山上ニ長寶寺故城アリ、壘跡猶辨スヘシ、高島玄蕃ノ墟ナリ、玄蕃此城ニ據リ自擅ニス、永正十五年、淺井長政其臣赤尾駿河守ヲシテ之ヲ攻メシム、玄蕃自殺シ城陷ル、又勝野ノ西、永田村ニ永田故城アリ、永田秀宗ノ居城ナリ、信長ノ爲ニ滅サル、又勝野ノ東南ニ當リ湖ニ突出スルヲ三尾崎ト云フ、天平寶字八年九月、惠美押勝戰敗レ船ニ乗テ鹽津ニ走ル、途難風ニ遇ヒ船此三尾崎ニ漂着シ、押勝官兵ニ捕ヘラレ遂ニ誅ニ伏ス、

木戸古城

第八 比良川ハ、比良嶽ヨリ發スル小流ナリ、平時涸渴
シテ一瀾ノ氷ナシ、北比良村ニ至テ西近江路ヲ横截ス、
橋長一十二間アリ木橋ナリ、次テ湖ニ入ル、此川ニ平行シ
テ大谷川・木戸川ノ二小流アリ、其二水間ニ木戸村アリ、
西近江路ノ驛次ナリ、村ノ西ニ木戸古城アリ、相傳フ十
乗坊ト云フ者在城スト、信長・淺井氏ト相争フ時、甲子左
近兵衛久氏之ニ據ル、天正元年、信長攻テ之ヲ降シ、城ヲ
明智光秀ニ與フ、
第九 和運川ハ、一ニ龍華川ト稱ス源ヲ途中村ニ發シ、
龍華村ヲ過キ東流シテ龍華越一名途中越ヲ開キ覆村・
南濱村ノ中間ニ於テ、西近江路ヲ横截ス、橋長一七間アリ
木橋ナリ、次テ湖ニ入ル水路二里餘

堅田關址

堅田古關

第十 眞野川ハ、源ヲ佐川村ノ西ナル山中ニ發シ、二三
ノ溪水ヲ集メ、東流シテ眞野村ニ至テ、西近江路ヲ横截
ス、橋長一八間三寸アリ石橋ナリ、次テ今堅田村ニ至リ湖
ニ入ル、

第十一 衣川ハ、源ヲ比叡山横川ノ峯ニ發シ、仰木村ヲ
過キ、衣川驛ニ至リ西近江路ヲ横截ス、橋長一五間三尺ア
リ木橋ナリ、次テ湖ニ入ル、此川ト眞野川トノ間ニシテ
湖畔ニ堅田村千三口約ニアリ、古ハ關濱ト號ス、古來關ヲ
置キ往來ノ船ヲ點檢ス故ニ名ク、津アリ湖東・木濱ニ渡
ルヘシ、水路十八丁アリ、所謂堅田ノ渡トハ是ナリ、今ハ
總テ此邊ヲ堅田浦ト稱ス、古來戰場ト爲ルヲ屢ナリ、正
平八年、山名時氏官軍ニ應ニ京師ヲ攻ム、足利義詮・北帝

殿帝光ヲ奉シ近江ニ走ル、新田氏ノ餘黨・堀口貞祐土寇ヲ
 率ヒ之ヲ此地ニ要撃ス、佐々木秀綱苦戰之ニ死シ、帝・義
 詮機カニ免ル、其後城アリ澤田兵庫宗忠ト云フ者之ニ居
 リ、信長ノ兵威ニ恐レ城ヲ棄テ走ル、信長・青地駿河守泰
 資ヲシテ之ニ居ラシム、元龜元年九月、淺井長政・朝倉義
 景大坂ノ本願寺ヲ救ヒ、兵三萬ニ將トシ、來テ比叡辻村
 ニ陣シ、宇佐山城大津ノ北ヲ攻ム、城將・森可成出テ之
 ナ拒ム、當時信長ノ弟・信治此城ニ在リ、猪飼甚助ヲシテ
 留守セシメ、城主青地ト共ニ此城ヨリ出テ、森可成ヲ
 救ヒ、北軍ト戰テ皆之ニ死ス、十一月、猪飼甚助此城ニ嬰
 リ、信長ニ請テ一將ヲ得、北軍ノ翼ヲ衝カントス、信長之
 ナ壯トシ坂井右近政尙ヲ遣ル、北軍之ヲ開キ急攻ス、坂

雄琴故城

坂本故城

井・猪飼以下力戰之ニ死ス、又天正元年、足利義昭・信長ヲ
 擊テ、石山城及此城ヲ修メ、大館伊豫守等ヲシテ之ニ據
 リ、信長ノ兵ヲ拒カシム、信長・丹羽長秀等ヲ遣リ攻テ之
 ナ拔カシム、衣川驛ヨリ大津ニ至ルノ間ニ戰吏ニ有名
 ノ地多シ、衣川驛ノ南・雄琴村ニ雄琴故城アリ、六角氏ノ
 屬城ナリ、永祿十一年、信長ノ拔ク所ト爲ル、元龜元年、淺
 井・朝倉連和シテ信長ヲ攻メ、朝倉義景此城ヲ以テ本陣
 トス、又其南ニ比叡辻村アリ、是亦同年ノ戰ニ北軍ノ陣
 セシ地ナリ、比叡辻村ノ南ニ一小流ヲ隔テ、下坂本村
 アリ、一ニ京坂本ト云フ、同年ノ戰ニ森可成等ノ戰死セ
 シ古戰場ナリ、故城アリ、信長比叡山ヲ攻メ此ニ城キ、明
 智光秀ヲシテ之ニ居ラシム、光秀既ニ誅ニ伏シ、秀吉・杉

唐崎古跡

原七郎左衛門家次ヲ置ク、後城ヲ大津ニ移ス、石垣今猶存ス、下坂本村ノ南ニシテ、湖中ニ突出スル岬ヲ唐崎ト名ク、古松アリ其名高シ、後醍醐天皇比叡山ニ臨幸ノ時、新田義貞・足利氏ト戦ヒシ古戰場ナリ、下坂本村ノ西南ニ穴太村アリ、此邊總テ滋賀舊都ノ跡ニシテ、穴太村ハ皇居ノ遺址ナリトス、景行天皇都ヲ此地ニ建テ玉ヒ、之ヲ高穴穗宮ト稱スト即是ナリ、成務天皇繼テ之ニ居玉ヒ、仲哀天皇ニ至リ都ヲ穴門長門ノニ遷シ玉フ、穴太村ノ西南・錦織村ニ宇佐山アリ、土俗三左衛門山ト云フ、山上ニ故城アリ、樓臺ノ跡顯然ナリ、元龜元年、信長京師ヨリ還リ、途此城ヲ築キ森三左衛門可成ヲシテ守ラシム、比叡山以南ハ山脈高カラス且湖畔ニ追マルヲ以テ、諸川

宇佐山古跡

皆短小ニシテ平常流水ナク、配スルニ足ル者ナシ、大津ハ、滋賀縣廳全國一ノ在ル處ニシテ、戶數四千六百六十、人口一萬五千六百一十一、市街西ヨリ南ハ長等山及逢坂山ヲ控ヒ、北ハ湖ニ面ス、其狀鶴翼ニ似タリ、故ニ鶴浦ト稱ス、東海・東山・北陸三道ノ要扼ニ當リ、京師ヲ距ル三里餘、維新前ハ一市驛ニ過キサリシカ、明治元年、縣廳ヲ置キシ以來人烟繁殖、百貨輻輳シ、全國第一ノ繁邑トナリ、兵營大坂鎮ノ分裁判所、警察本署、病院、師範學校、郡役所、銀行及第六十四國立銀行支店、三井寺等アリ、陸ニ鐵道アリ、湖ニ漁船アリ、諸港ニ往來ス、旅客ノ送迎、物貨ノ運輸極テ便ナリ、針・算盤・絲紡車ヲ名産トス、天智天皇六年、都ヲ此地ニ移シ、志賀大津宮ト名ケ玉フ、天武大

大津故城

膳所城

友ノ亂ニ應シテ、古都トナリシカハ、是レヨリ古津ト呼
 へリ、桓武天皇ノ朝ニ改テ大津ト稱ス、古城アリ坂本城
 ナ移セル者ニシテ、京極高次ヲ封ス、關原ノ役ニ高次・德
 川氏ニ應シ、城外ヲ掃蕩シ城ニ嬰ル、西軍三萬・毛利元康
 ナ大將トシ圍ミ攻ム、城中彈藥盡キ、高次遂ニ降ル、是ニ
 於テ德川氏・高次ヲ若狹ニ轉封シ、城ヲ膳所ニ移シ、以テ
 世代官ヲ派遣シテ治シ、以テ明治維新ニ至ル、
 大津ノ東・馬場ノ湖畔ハ古ノ所謂打出濱是ナリ、其馬場村
 ハ木曾義仲ノ戦死セシ地ナリ其東・松本ニ續ケル市街
 ナ膳所千八百約四ト云フ、膳所城ハ湖畔ニ臨ム、慶長六年、
 德川氏諸國ノ守ニ令シ、大津城ヲ此地ニ移シ築カメシ、
 初、戸田左門一西ヲ封シ、後、本多俊次ヲ封ス、世之ニ治シ

大津古戦場

以テ維新ニ至ル、明治三年、之ヲ毀テ今ハ其跡ニ監獄署
 ナ置ク僅カニ遺形ヲ存スルノミ、膳所ノ東ニ栗津古戰場
 アリ、木曾義仲其將今井兼平ト共ニ源範賴ノ軍ト戦ヒ、
 敗レシ處ナリ、

交通路

國道 第二

東海道 山城國境ニ達スル路 伊勢

山城國境 三十五間丁 大津 三十三里 同七丁 草津 二里 同十三
 尺間 四 石部 八里 同六尺丁 十 水口 二里 同四十三 同五 土山 一里 同十二
 間 十二 伊勢國境 合十五里 廿四丁 八間

國道 第七

中山道 栗太郡草津關ル路 美濃國境ニ達スル路 續

草津八里二丁十
 愛知川五里一尺十
 二尺間 番場十三里七尺五丁
 尺一 美濃國境合十五里廿町三十四間三尺
 武佐六二里十
 鳥居本丁二里九
 柏原廿一九間丁

國道八第號十

美濃國境十六里四
 藤川十一里三
 郡上十二里五
 柳瀬六里三
 越前國境合十三里二十二丁五十四間二尺
 北國脇往還美濃國境二國境スヨリ路越線前
 春照五里七九
 木本七二里二十
 中河内里一

縣道

西近江路山大洋中津驛ニリ越前國路教實郡

大津十三里六丁四
 衣川十一里八丁二
 和邇丁三十一里七
 河原市十一里九
 山中境
 合十九里八丁五十四間四尺

北國街道坂田郡鳥居本達スヨリ分リ線伊香

鳥居本三十五間町
 米原九里二尺廿
 長濱丁三十里九間十五
 木本合七里八丁三十五間四尺

御代參街道愛知郡山縣ニ知達川スヨリ分リ線甲賀

愛知川廿六里三十五尺二丁
 八日市丁十里一十間二
 岡本十三四間丁
 石原丁四里三十一尺五
 鎌掛丁廿里一廿九間九
 土山合八里十
 五丁十六間二尺

朝鮮人街道野洲郡山縣ニ山縣スヨリ分坂田郡

守山廿七里間廿四尺丁 八幡卅七里間十七尺丁 彦根十一里間一町三尺
鳥居一本合十一里七丁三十六間一尺

柳瀬三十間八丁 越前國境 倉坂越伊香郡柳瀬村ニ達スル越前國教

七里半越高島郡山津町ニ達スル越前國教
海津一廿二丁 小荒路十四間丁 野口五里間十町 越前

國境合二里九丁三十五間 沓掛越西賀津郡新道津二渡村スル越前國

鹽津濱十七間丁 鹽津中二間丁 餘十廿二間丁 沓掛四丁里
越前國境合二里十二丁一間

里道

山中越滋賀郡白川里ニ村ニ達スル山城國

滋賀里十五間五丁 山中十九間丁 山城國境合一里十八
二丁十六間

途中十一丁間五 途中越岩郡小出石村ニ達スル山城國
山城國境 醍醐越滋賀郡笠取村ニ達スル山城國宇

寺邊三十 山城國境 宇治田原越栗太郡笠取村ニ達スル山城國

關津五廿六間丁 東十一丁 大石中十七間丁 龍門四廿六間丁

小田原十五間丁 山城國境合二里十四丁四十五間

油日十一里間 伊賀國境 油日越甲賀郡上柘植村ニ達スル伊賀國

八風越明郡崎切郡山上市建スリ伊勢國朝
 山上六丁廿 高野十三丁三 九居瀬丁一里三 製畑
 五六丁 廣和田十九丁五 杜葉尾二十里八丁 伊勢國境合
 四里二十七丁三十四間

大浦十丁三 庄六七丁 中十六丁三 山門二十里三丁
 越前國境合二里三十四丁四十五間

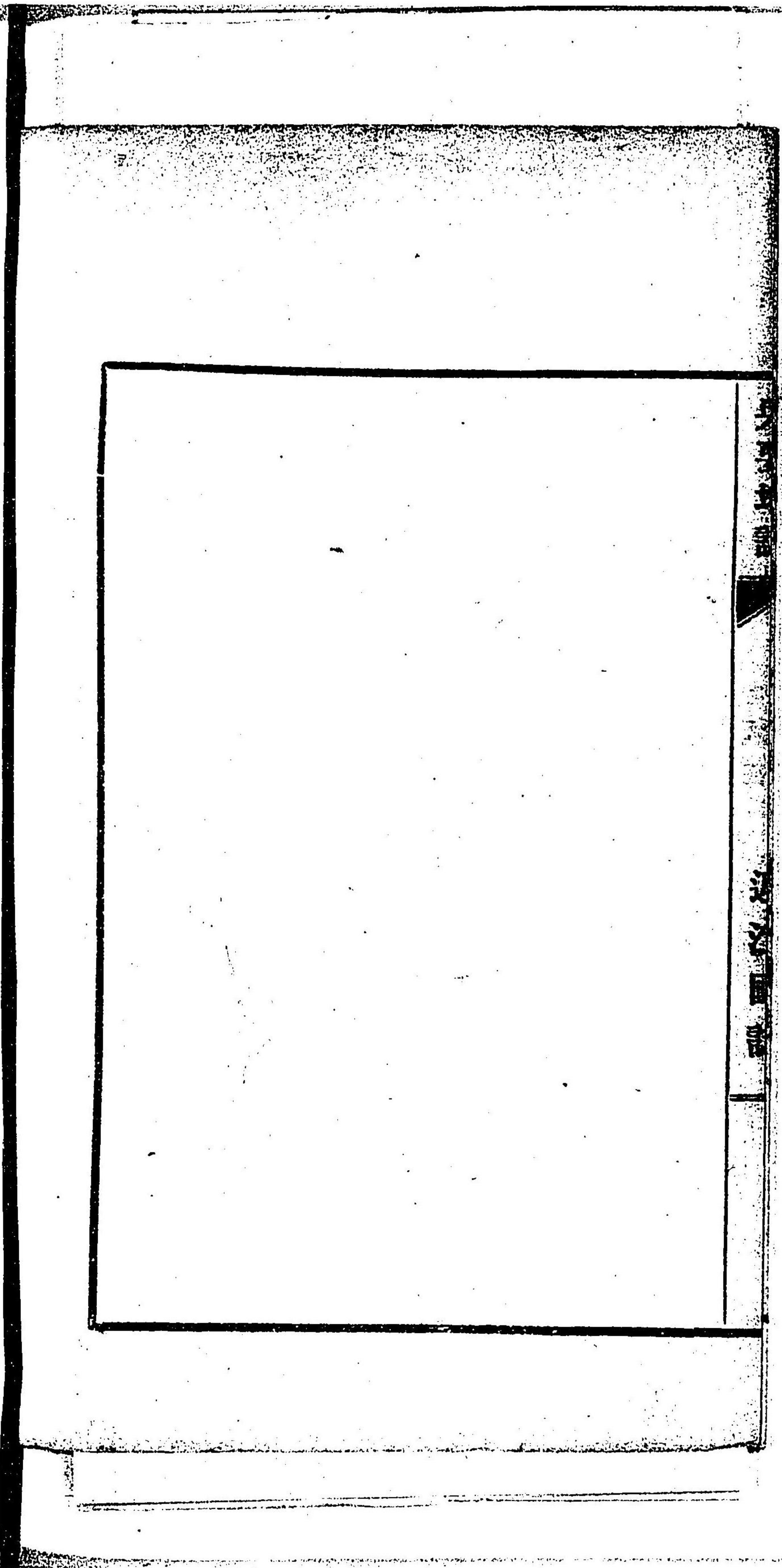
沿革畧史

古淡海國ト云フ、成務天皇高穴穗穴太郡ニ都シ、天智天
 皇大津ニ都シ、湖ノ近クアルヲ以テ近江ト名ク、蓋江ハ
 湖ニシテ、遠江ニ對スル名ナリ、後國府ヲ栗太郡ニ置ク、
 橋今本村勢多 宇多天皇ノ皇子敦實親王ノ孫參議扶義州守

ト爲リ、鎌倉府ノ時、扶義ノ末葉佐々木秀義功アルヲ以
 テ、子孫世守護トナリ、孫信綱以後多ク州守ヲ兼ヌ、信綱
 子泰綱・氏信俱ニ將軍賴經ニ事ヘ、泰綱南境六郡太滋賀栗
 生野洲時ヲ領シテ六角ト稱シ、觀音寺城ニ居リ、嫡宗ヲ以
 テ守護ヲ襲ク、氏信北境六郡淺井伊香高島ヲ領シテ京
 極ト稱シ、伊吹上平城ニ居リ、愛知川ヲ以テ界トス、泰綱
 八世ノ孫義賢ニ至リ、臣民離心、將軍義昭ノ來投スル依
 違命ヲ奉セス、永祿十一年、織田信長師ヲ興シテ罪ヲ問
 フ、義賢其子義弼ト出亡シ、地皆信長ニ歸ス、京極氏信十
 世ノ孫高峯ニ至リ、家臣淺井亮政專恣、永正十五年、遂ニ
 其地ヲ奪ヒ、小谷城淺井ニ居リ、高峰僅ニ上平一城ヲ保
 ツ、天正元年、信長・淺井氏孫亮政ノヲ滅シ、四年安土山ニ城

テ之ニ徙リ、明智光秀ヲ滋賀郡ニ封シ、坂本ニ居ラシメ、
 淺井氏ノ故疆ヲ割テ豐臣秀吉ニ賜ヒ、長濱ニ居ラシム、
 信長弒セラル、ニ及テ、其長臣等胥謀テ柴田勝豐ヲ長
 濱ニ置キ、丹羽長秀ヲ佐和山ニ鎮セシメ、後秀吉此ニ封ス
 州租ヲ以テ織田秀信ニ供ス、天正十三年、秀吉義子秀次
 ヲ本州ニ封シ、八幡山ニ城カシメ、十七年、高峰ノ曾孫高
 次ヲ大津ニ封ス、文祿中、秀次罪有、テ國除カル、關原役畢
 リ、徳川氏・石田三成ヲ戮シ、井伊直政ヲ佐和山ニ封シ、後
 ニ彦根ニ城カシム、又高次ヲ若狹ニ徙シ、戸田カマ一西ヲ封
 シ、徙テ膳所ニ治セシム、後ニ本其後州内封ヲ受クル者、
 水口初、加藤明友次ヲ島居大溝分、信部西大路初、仁正寺橋
 利小室初、英後、復、加藤嘉矩山上初、重定宮川初、休田三上初、藤

親凡八藩、又大津代官ヲ置ク、王政革新ノ初、遠藤氏ヲ吉
 見和ニ轉シ、山形前ノ水野氏ヲ徙シテ、朝日山藩ヲ建ツ、
 既ニシテ悉ク之ヲ廢シ、長濱後、犬上大津後、滋賀二縣ヲ置
 キ、又合シテ滋賀一縣トナシ、越前一郡郡、教賀及若狹全國
 ヲ加フ、明治十四年、之ヲ割テ福井縣ニ併シ、以來本州一
 圓ヲ管治ス、而シテ全國第四軍管大坂鎮臺第七師管ノ
 管城ニ屬シ、大津ニ分營ヲ建テ、歩兵第九聯隊ヲ置ク、



兵要地誌附圖

大日本近江國



明治廿一年二月十五日印刷
同年三月二日出版

〔定價金拾五錢〕

東京涼橋山下町六番地
東京府士族

發行者 宇津木信夫

同 區同 町七番地
內外兵事新聞局

印刷者 右 同人

東京

發行所 內外兵事新聞局

